

18-890

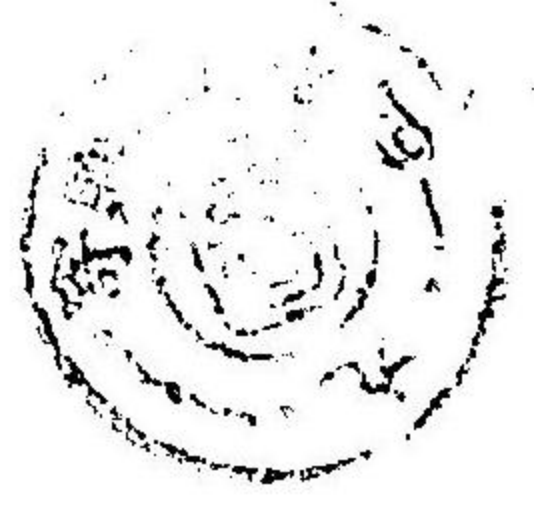
東京地方裁判所檢事 法學士清水孝藏先生序  
山形地方裁判所判事 森 雅太郎先生述

警察新聞社 寄贈本

# 改正刑法講義總論

完

警察新聞社發兌



## 序

新刑法の實施は既に目睫の間に迫りたり。官民各其職に應じ、相當の研究を爲さざる可からざる時期に達したり。警察新聞社風に此に觀る所あり。森判事に囑し。今回簡明にして一般の必要に應ずるに足るべき程度の新刑法總則の講義を出版す。誠に美舉なりとす。

新刑法に關する著書甚だ多し。雖ども詳しきは繁に過ぎ。簡なるは難に近く。初學者又は職務多忙なる者の研究に適するもの尠し。本書は僅百餘頁の小冊子なり。雖ども一讀明瞭なる條文に付ては、説明を簡略にし。比較的重要な條文。又は難解の條文に付ては、特に意を用ひ。丁寧に説明したるを以て。刑法總則に關じ、必要な觀念を授くるに於ては、遺憾なきもの

と謂ふことを得べし。而かも著者自身は、不日此の法律適用の任に當るべき人なるを以て、立論亦穩健なりとす。惟ふに新刑法に關する研究は、爾後年月を追ふて進歩すべく、今日に於ては、到底其完璧なるものを望むべきものにあらず。然れば本書の如きは、今日に於て、初學者又は劇務者の爲めに、研究の階梯となすには、頗る適當なるものと謂ふべく、亦以て警察新聞社が、時勢の必要に貢獻せんとする目的に協合するものと謂ふべし。

明治四十一年八月

法學士 清水孝藏識

正改 刑法講義總論目次

刑法

第一編 總則	四
第一章 法例	五
第二章 刑	二三
第三章 期間計算	三三
第四章 刑ノ執行猶豫	三四
第五章 假出獄	四〇
第六章 時効	四二
第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	四六
第八章 未遂罪	八二
第九章 併合罪	九〇
第十章 累犯	一〇二

刑法講義總論目次

と謂ふことを得べし。而かも著者自身は、不日此の法律適用の任に當るべき人なるを以て、立論亦穩健なりとす。

惟ふに新刑法に關する研究は、爾後年月を追ふて進歩すべく、今日に於ては、到底其完璧なるものを望むべきものにあらず。然れば本書の如きは、今日に於て、初學者又は劇務者の爲めに、研究の階梯となすには、頗る適當なるものと謂ふべく、亦以て警察新聞社が時勢の必要に貢獻せんとする目的に協合するものと謂ふべし。

明治四十一年八月

法學士 清水孝藏識

正改 刑法講義總論目次

刑法

第一編 總 則	一頁
第一章 法例	四
第二章 刑	五
第三章 期間計算	二三
第四章 刑ノ執行猶豫	三三
第五章 假出獄	三四
第六章 時効	四〇
第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	四二
第八章 未遂罪	四六
第九章 併合罪	八二
第十章 累犯	九〇
刑法講義總論目次	一〇二

第十一章 共犯 ..... 一〇四

第十二章 酌量減輕 ..... 一一五

第十三章 加減例 ..... 一二六

正改 刑法講義總論目次 終

正改 刑法講義總論

判事 森 雅太郎 著

刑法

刑法ノ意義ニ廣狹ノ二アリ廣義ニ於ケル刑法トハ犯罪ナル一定ノ事實ト刑罰ナル法律上ノ効果トヲ定メタル國家法規ノ全體ヲ云フ

事實ハ現象ナリ現象トハ吾人々類ノ知覺シ得ベキ外界ノ變動ニ外ナラズ凡ソ外界ノ變動ハ自然ノ法則ニ基キ發生消滅シ刑法ノ規定ヲ俟ツテ後存在スベキモノニアラズ然レドモ其如何ナル事實ヲ犯罪ト云フカハ哲學上ノ問題ハ姑ラク措キ成法上ノ解釋トシテハ一ニ法ノ定ムル處ニ從フベク法規ヲ離レテ何等ノ論定ヲ爲スヲ許サズ要ハ立法者ガ其國其時代ノ狀態ニ鑑ミ國家ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ刑罰ナル制裁ヲ附スルヲ必要ト爲シタル事實ナリトス而シテ等シク國家ノ安寧秩序ヲ害スル事實ト雖モ人類ノ意思ニ基キ發生スルモノト否ラザルモノトアリ學者前者ヲ稱シテ行爲ト云ヒ後者ヲ稱シテ事件又ハ狹義ノ事實ト云フ事件

ハ人類ノ意思ト何等ノ關係ナク偶然ニ發生シ偶然ニ消滅ス故ニ國家ガ其安寧秩序ヲ保持スル上ニ於テ有害ナリトシ刑罰ヲ附スルハ古代人智ノ幼稚ニシテ迷信ノ盛ニ行ハレタル時代ハイザ知ラズ文化ノ開ケタル今日ニ於テハ全ク無意義ナリ從テ刑罰ヲ附スベキ事實ハ獨リ人類ノ行爲ニ限ラルベキモノトス然レドモ人類ノ行爲ハ凡テ國家ノ安寧秩序ヲ害スベキモノニアラザルハ勿論假令其有害ナルモノト雖モ必ズシモ刑罰ヲ科スルノ必要ナシ故ニ人類ノ行爲ニシテ犯罪タルニハ國家ノ安寧秩序ニ有害ニシテ且ツ罰スベキ必要アルモノタルコトヲ要ス之ヲ法律上ノ術語ヲ籍リテ云ヒハ犯罪トハ罰スベキ有責違法ノ行爲ナリト云フニ在リ尙ホ此點ニ付テハ後ニ詳論スル處アルベシ

刑罰トハ以上ノ説明ニ依リテ略々明カナルガ如ク國家ガ犯罪鎮壓ノ爲メニ執一ノ手段ナリ而シテ其形式ハ國家ガ犯罪ナル事實ニ對シテ連結シタル法律上ノ効果ニシテ其内容ハ犯人ノ有スル法律利益法ノ保護シタル生活利益ヲ剝奪スルニ存ズ從テ刑罰ノ存在ハ國家刑罰權ノ存在ヲ前提トセザル可ラズ故ニ刑罰ハ事實ト反シ國家權力ノ發動ニ基ク法律ノ規定ヲ俟ツテ始メテ其存在ヲ認ムルコトヲ得ベシ而シテ刑罰權ハ固事實上無限ナル國家ノ權力ヲ國家自ラ制限シテ其發

動ノ範圍ヲ限制シタルモノニシテ此ノ國家ノ自制限ガ事實上ノ權力ヲ變ジテ法律上ノ權力ト爲シタル者ナリ其限界ヲ形ニ現ハンタルモノハ即チ刑法ナリトス故ニ學者ハ此點ヨリ刑法ヲ觀察シテ刑法トハ國家刑罰權ノ實體ヲ定メタル法規ナリト定義ス蓋シ前ニ掲ゲタル定義ト語ヲ異ニシテ其意義ヲ同フスル者ナリ上來説明スルガ如ク刑法ハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル國家ノ法規ナリ故ニ苟クモ國家ノ法規ニシテ如上ノ内容ヲ有スル以上ハ其法規ノ形式ガ法律ナルト命令ナルトヲ問ハズ其刑法ナル名稱ノ下ニ公布セラレタルト否トヲ論ゼズ等シク廣義ニ於ケル刑法タリ而シテ慣習法モ國家法規ノ一種ニ屬スルヲ以テ亦廣義ニ於ケル刑法々規タルニ妨ゲナシト雖モ近時一般ノ法律思想ハ一定ノ行爲ニ刑罰ナル法律上ノ効果ヲ附スルニハ嚴密ナル成文法ノ存在ヲ必要トスルニ至リ舊刑法ノ如キハ其第二條ニ於テ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得ズト規定シ明文ヲ以テ慣習法ノ刑罰法タルコトヲ杜絶シタリ然ルニ新法ニ於テ之レガ規定ヲ設ケザリシ所以ハ慣習法ガ刑罰法トシテ存在スベキコトヲ認メタルガ爲メニアラズシテ却テ之レガ存在ヲ否認スルニ付キ明文ヲ要セズシテ明カナリト爲シタルニ由ル此ノ如ク其法規ノ内容ニシテ犯罪ト刑罰トヲ定メタ

ルモノナル以上ハ其形式ノ如何ヲ問ハズ等シク刑罰法タルニ妨ゲナシト雖モ我  
憲法第二十三條ハ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ラズシテ處罰ヲ受クルコトナシト  
規定セルヲ以テ現行憲法ノ下ニ於テ刑罰法タルベキ法規ハ一狹義ニ於ケル法律  
(憲法第三十七條參照)ニ法律ニ代ル緊急勅令(憲法第八條參照)三法律ノ委任ニ依ル  
命令四憲法施行以前ニ於テ法律規則命令其他ノ名稱ノ下ニ既ニ發布セラレタル  
法規ノ四個ノ成文法ニ限ラルベキモノトス  
狹義ニ於ケル刑法トハ刑法ナル名稱ノ下ニ公布セラレタル國家ノ法規ヲ云フ故  
ニ其實質ニ於テ刑法タル内容ヲ有スル法規ト雖モ刑法ノ名稱ヲ附セラレザルモ  
ノハ此ニ所謂刑法ニハアラザルナリ本書ニ於テ説明セントスル處ハ此狹義ノ刑  
法ニシテ明治四十年法律第四十五號ヲ以テ公布セラレタル法規ナリトス本法ハ  
總則及ビ罪ノ二編ニ分テ全典五十三章二百六十四條ヨリ成立ス以下説明スル  
處全ク其法條ノ順ニ從フ

## 第一編 總 則

刑法ハ犯罪ト刑罰トヲ以テ其内容ト爲スコトハ前ニ説明シタルガ如シ而シテ犯

罪タルベキ事實ノ一様ナラザルガ如ク之レニ對スル刑罰ニモ亦種々アリト雖モ  
既ニ犯罪ト云ヒ刑罰ト云ヒ同一ナル名稱ノ下ニ統一セラル、以上ハ之レ等各種  
ノ犯罪及ビ刑罰ニ共通セル原則存在セザル可ラズ此原則ヲ抽出彙類シテ規定セ  
ルモノハ本編總則ナリトス即チ犯罪ニ付テハ犯罪ノ成立條件及ビ其主體第七章  
犯罪ノ不成立及ビ刑ノ減免犯罪ノ體様第八章未遂罪第九章併合罪第十章累犯第  
十一章共犯等ニ關スル原則ヲ規定シ刑罰ニ付テハ刑ノ種類(第二章刑)刑ノ執行第  
四章刑ノ執行猶豫第五章假出獄刑罪權ノ消滅(第六章時効)及ビ刑期時効期間等ノ  
計算ニ關スル法則第三章期間計算并ニ刑ノ加減及ビ其順序ニ關スル原則(第七章  
ノ一部)第十二章酌量減輕第十三章加減例ヲ規定シ其開卷第一章ニ於テ法例ナル  
題目ノ下ニ刑法ノ効力ニ關スル大原則ヲ規定シタリ

## 第一章 法 例

法例トハ刑法ノ適用ニ關スル通則ニシテ則チ刑法ハ如何ナル事物ニ付キ如何ナ  
ル場所ニ於テ如何ナル人ニ對シ如何ナル時ニ有効ニ適用セラルベキカヲ定メタ  
ルモノニシテ之ヲ換言スレバ刑法ノ効力ニ關スル原則ヲ規定シタルモノナリ即

チ第一條乃至第五條及第七條ハ物場所人ニ對スル刑法ノ効力ヲ規定シ第六條ハ時ニ付テノ刑法ノ効力ヲ規定シ第八條ハ刑法ノ總則ト他ノ法令トノ關係ニ付キ其適用範圍ヲ定メタリ

第一條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ於ケル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同ジ

第一刑法ノ事物ニ對スル効力 刑法ノ支配ヲ受クベキ事物ノ犯罪ナルコトハ刑法ノ本質上當然ニシテ本條第一項ハ罪ヲ犯シタル者云々ト規定シ亦他ニ何等説明スルノ要ナシトス而シテ其罪ノ如何ナル事實ナルヤハ一々各本條ニ依リ定ムルノ外ナシ

第二刑法ノ場所ニ對スル効力 此問題ニ付テハ學說上四箇ノ主義アリ

一、屬人主義 此主義ハ臣民主權ノ觀念ヲ基礎トシテ發生シタルモノニシテ其犯罪地ガ自國領土ノ内外タルヲ問ハズ苟クモ其犯人ニシテ自國ノ臣民タル以上ハ常ニ自國ノ刑法ヲ適用スベク反之外國人ニ對シテハ犯罪地ガ自國領土ノ内外タルヲ問ハズ一切適用セズト云フニアリ之レ古昔未ダ領土ノ觀念ヲ有セザリシ所謂遊牧時代ノ人民ノ遺想ニシテ今日ノ如ク各

國ガ一定ノ領土ニ占據シ其國內ノ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ必要トスル時代ニハ到底行ハルベキ主義ニアラズ

二、屬地主義 此主義ハ領土主權ノ觀念ヲ基礎トシテ發達シ來リタルモノニシテ苟クモ自國領土内ノ犯罪ナル以上ハ内外國人ノ區別ナク自國ノ刑法ヲ適用スベク反之自國領土外ノ犯罪ニ付テハ一切之レガ適用ナキモノト爲スニアリ其領土内ノ凡テノ犯罪ヲ處罰シ得ル點ニ於テ屬人主義ニ優ルコト數等ナルモ外國ニ於テ内國ノ生存ヲ危フスベキ犯罪ヲ爲シタル内外國人ニ對シ何等ノ制裁ヲモ加フルコト能ハザルヲ以テ未ダ完全ノ主義ト爲スヲ得ズ

三、保護主義 此主義ハ屬地主義ヲ原則トシ例外トシテ自國領土外ノ犯罪ニ付テモ自國ノ刑法ヲ適用スト云フニアリ即チ自國ノ領土内ニ發生シタル犯罪ニ付テハ其犯人ノ内外國人タルヲ問ハズ自國刑法ヲ適用シ尙ホ自國領土外ニ行ハレタル犯罪ト雖モ自國ノ安寧秩序ヲ維持スルニ必要ナル範圍ニ於テハ犯人ノ内外國人ニ拘ハラズ内國ノ刑法ヲ適用スルニ在リ此主義ハ國家ノ安寧秩序ニ有害ナル行爲ヲ防遏スルコトヲ目的トスル國家



刑罰權ノ存在理由トモ一致シ且ツ國際法上ニ於テモ國家ノ自衛權トシテ近時學者ノ認ムル處ニ依リ近世多クノ立法例トナレル主義ニシテ本法ニ於テモ亦此主義ヲ採用シ第一條第一項ニ於テ其原則タルベキ場合ヲ定メ

第二條乃至第四條ニ於テ其例外ニ屬スベキ場合ヲ規定シタリ

四、世界主義 此主義ハ一國ノ刑法ハ犯罪地ノ内外國タルヲ問ハズ汎ク内外國人ニ對シ適用スト云フニ在リテ其根據トスル處ハ凡テノ犯罪ハ各國共同ノ利益ヲ害スベキ罪惡ナルヲ以テ各國ハ之ヲ撲滅スル爲メ共同ノ作用ヲ爲ササル可ラズト云フニ存ス然レドモ各國ノ刑法ガ其規定ノ内容ヲ著シク異ニスル今日ニ於テハ到底行ハルベキ主義ニアラズ

以上四箇ノ主義中本法ハ保護主義ヲ採用シ其原則ヲ本條第一項ニ規定シタルコトハ前ニ説明シタルガ如シ同條第一項ニ所謂帝國内トハ日本帝國ノ領土内トノ意味ニシテ領土トハ一國統治權ノ行ハルベキ土地ノ範圍ナリ而シテ其領土ニ屬スベキモノヲ舉グレバ左ノ如シ

一、領地 領地ハ一定不變ノモノニアラズ時ニ伸縮アリ從テ刑法ノ行ハルベキ範圍モ時ニ依リ同ジカラズ

二、領海 他ノ侵害ニ對シ干潮ノ時陸地ニ於テ事實上武力ヲ以テ防衛シ得ル海面ノ範圍

普通平時ニ於テハ三海里トシ戰時ニアリテハ六海里若クハ十二海里迄延長シ得ト爲ス

三、公海及ビ他國ノ領海内ニ於ケル帝國ノ艦船軍艦以外ノ國船モ含ム

四、戰時我軍隊ノ占領シタル外國ノ領土

五、條約ニ因リ我領事裁判權ノ行ハル、外國ノ領土 此場合ハ犯人ガ日本人ナルトキニ限ル

六、條約ニ因リ租借權ヲ得タル外國ノ領土

第三刑法ノ人ニ對スル効力 刑法ハ國法上又ハ國際法上ノ理由ニ因ル特例ヲ除クノ外其効力ノ及ブベキ土地ニ於ケル凡テノ人ニ適用セララルベキモノトス其特例ノ場合左ノ如シ

一、國法上ノ理由ニ基ク例外

イ、天皇(憲法第三條參照)

ロ、帝國議會ノ議員憲法第五十二條ニ依リ帝國議會ノ議員ハ議院内ニ於

テ發言シタル意見并ニ表決ニ付キ院外ニ於テ責ヲ負ハス但シ議院内ノ行爲ト雖モ意見并ニ表決以外ノ行爲ニ對シテハ刑法ヲ適用スルニ妨ナキハ勿論ナリ

### 二、國際法上ノ理由ニ基ク例外

イ、外國ノ君主大統領領其家族及ビ内國人ニ非ラザル雇員并ニ從者

ロ、外國ノ使節、全權大使、全權公使、辨理公使、代理公使、書記官、書記生、大公使館附武官其家族及ビ内國人ニアラザル雇員并ニ從者

領事ハ外國ノ使節ニアラズ從テ條約ニ特例アル場合ノ外原則トシテ内國刑法ノ適用ヲ受ク

ハ、内國ニ駐在スル外國ノ軍隊、内國ニ駐在スルコトニ付テハ内國ノ承認ヲ要スルモ一旦承認モラレタル以上ハ當然内國刑法ノ適用ヲ受ケズ但シ其一員軍隊ヲ離ル、トキハ此特權ヲ失フ

學者尙ホ刑法ノ人ニ對スル効力ノ國際法上ノ理由ニ基ク例外トシテ内國領海内ニ於ケル外國ノ軍艦ヲ揚グルモ誤レリ何トナレバ一國ノ軍艦ハ國際法上其領土ノ一部ト看做サレ既ニ刑法ノ土地ニ對スル効力ニ付キ相互

ニ内國刑法ノ適用ナキコトヲ認メラレタル以上ハ其生ニ於ケル人ニ對シテハ當然内國刑法ノ適用ナリ從テ之レガ例外ノアルベキ理由ナケレバナリ

以上ヲ以テ刑法ノ物人及場所ニ對スル効力ヲ説明シタルト同時ニ本條第一項ノ意義ヲ明カニシタリ而シテ尙ホ如何ナル場合ニ於テ帝國內ニ犯罪アリタルヤヲ明カニセント欲セバ犯罪地トハ如何トノ問題ヲ生ズルモ此ハ犯罪ノ成立條件ヲ明カニシタル爲ニ説明スルヲ便宜トスルヲ以テ本編第七章ノ説明ニ讓ルベシ而シテ本項ニ所謂本法トハ刑法々典其者ヲ意味シ第八條ニ依リ刑法ノ總則ヲ他ノ刑罰法令ニ適用セラル、トキハ本法トハ其刑罰法令ヲ指シタルモノト解スベク若シ他ノ刑罰法令ニシテ特別規定ヲ設ケ刑法總則ノ適用ヲ排除シ且ツ土地ニ關スル刑法ノ効力ニ付キ何等ノ規定ナキトキハ其刑罰法令ノ土地ニ關ズル効力ハ前掲屬地主義ヲ採リタルモノト解スベシ之レ蓋シ一國權力ノ行ハルベキ範圍ハ領土内ニ限ラルベキヲ原則トスルヲ以テナリ

本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國船舶内ノ犯罪ニ付キ内國刑法ヲ適用スベキ

旨ヲ規定セリ此ニ所謂帝國船舶中ニハ帝國軍艦及ビ其他ノ國船ヲ包含セザルコトハ軍艦其他ノ國船ハ國際法上當然領土ノ一部ト看做サレ第一項ノ帝國內ニ包含セラレ特ニ之レガ規定ヲ設クル必要ナキノミナラズ之レ等ノモノヲ包含スル場合ニハ特ニ本法第八十二條第九條第一項第二百二十六條第二項第三百三十條第一項第二百六十條等ニ於テ艦船ナル文字ヲ用ヒタルニ依ルモ明カナリ軍艦及ビ其他ノ國船以外ノ船舶ニシテ公海ニ在ル場合ニ其船舶内ノ犯罪ニ對シ自國ノ刑法ヲ適用スルニ付キ二說アリ一ハ自國ノ船舶ハ領土ノ一部ナリト云フニ在リテ一ハ公海ニ在ル普通ノ船舶ニ對シテハ何レノ國ノ法律モ其効力ヲ及ボサルニ由リ必要上自國ノ刑法ヲ適用スト爲スニ在リ前說ニ從ヒバ軍艦其他ノ國船ト同ジク本條第一項ノ帝國內ニ包含セラレ特ニ之レガ規定ヲ設クルノ要ナシ故ニ本法ハ後說ヲ採用シ本項ノ規定ヲ爲シタルモノト解セザル可ラズ從テ本項ニ所謂帝國外トハ公海ノミヲ意味シ外國ノ領海又ハ河川ヲ包含セザルモノトス

本條第二項ハ保護主義ニ基ク例外規定ニアラズ蓋シ保護主義ニ基ク例外規定ハ外國ノ領土内ニ行ハレタル犯罪ニ對シ内國ノ刑法ヲ適用スベキ必要アリ

ル場合ニ生ズル規定ニシテ本條第二項ノ如キ何レノ國ニモ屬セザル公海上ノ犯罪ニ對スル場合ヲ包含セザルヲ以テナリ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一、第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二、第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三、第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四、第四百八條ノ罪及ビ其未遂罪
- 五、第五百十四條第五百十五條第五百十七條及ビ第五百十八條ノ罪
- 六、第六十二條及ビ第六十三條ノ罪
- 七、第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ビ第六十四條第二項第六十五條第二項第六十六條第二項ノ未遂罪

本條ハ保護主義ニ基ク屬地主義ニ對スル例外ノ場合ノ一ヲ規定シタルモノニシテ從テ本條ニ所謂帝國外トハ第一條第二項ノ帝國外ナル文字ト其意義ヲ異ニシ外國ノ領土ヲ意味スルモノトス故ニ何レノ國ノ領土ニモ屬セザル無主ノ

島嶼又ハ公海ニ於ケル無國籍ノ船舶内ニ於テ内國刑法ノ犯罪行ハレ其犯人ニシテ帝國臣民ナルトキハ臣民主權ヲ理由トシ外國人ナルトキハ國家ノ自衛權ヲ根據トシテ内國刑法ヲ適用處斷スベク本條又ハ第三條第四條等ニ依リ内國刑法ヲ適用スベキモノニアラズ

本條第一號乃至第七號ノ罪ハ立法權ガ帝國ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ外國領土内ニ行ハレタル場合ト雖モ尙ホ罰スベキ必要アリト認メタルモノニ過ギズシテ學理上特別ノ理由アルニハアラズ其各罪ノ詳細ナル説明ハ各本條ノ下ニ於テ爲スベシ唯此ニ注意スベキハ本條及ヒ次條以下ニ列擧シタル犯罪ニ付キ外國ニ於テ教唆犯又ハ從犯アリタルトキハ等シク内國刑法ヲ適用シテ處罰スベキコト之レナリ之レ蓋シ教唆犯又ハ從犯ハ各本條ニ記載シタル罪ト獨立シテ別箇ノ罪ヲ爲スニアラズシテ其各犯罪ノ一體様ニ外ナラザルヲ以テナリ

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一、 第八條第九條第一項ノ罪第八條第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ビ此等ノ罪ノ未遂罪

- 二、 第一百十九條ノ罪
- 三、 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪
- 四、 第六十七條ノ罪及ビ同條第二項ノ未遂罪
- 五、 第七十六條乃至第七十九條第八十一條及ビ第八十四條ノ罪
- 六、 第九十九條第二百條ノ罪及ビ其未遂罪
- 七、 第二百四條及ビ第二百五條ノ罪
- 八、 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
- 九、 第二百十八條ノ罪及ビ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
- 十、 第二百二十條及ビ第二百二十一條ノ罪
- 十一、 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
- 十二、 第二百三十條ノ罪
- 十三、 第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條及ビ第二百四十三條ノ罪
- 十四、 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
- 十五、 第二百五十三條ノ罪

十六、第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同ジ  
本條モ亦前條ト同ジク保護主義ニ基ク屬地主義ニ對スル例外ノ場合ヲ規定シ  
タルモノニシテ本條第一項ハ其犯人ガ帝國臣民タル場合ニ限定シタルヲ以テ  
外國人ガ本條第一項列記ノ罪ヲ犯スモ內國刑法ノ適用ナキモノトス而シテ其  
帝國臣民タルヤ否ヤハ犯罪當時ニ於ケル本國トノ關係ニ依リ國籍法ノ規定ニ  
從ヒ定ムベキモノトス國籍法第七條ニ由レバ外國人中ニハ無籍國人モ包含ス  
本條第二項ハ外國ニ於テ帝國臣民ニ對シ第一項列記ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ  
本法ヲ適用スベキ旨規定セリ法文ニ所謂帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯ストハ  
第一項所揚ノ犯罪行為ニ因リ侵害セラレタル法益ノ享有者ガ帝國臣民タルコ  
トヲ意味ス換言スレバ其犯罪ノ被害者ガ帝國臣民タル場合ヲ云フナリ而シテ  
其被害者ノ何人ナルカハ各本條ノ說明ニ因リ明カナルベシ  
第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ  
適用ス

一、第一百一條ノ罪及ビ其未遂罪

二、第五百五十六條ノ罪

三、第九十三條第九十五條第二項第九十七條ノ罪及ビ第九十五條第

二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

本條モ亦保護主義ニ基ク屬地主義ニ對スル例外ノ場合ヲ規定シタルモノナリ  
而シテ本條ノ適用ヲ受クルモノハ帝國ノ公務員ニ限ルヲ以テ公務員タル身分  
ヲ有セザル者ハ單獨正犯トシテ本條ノ適用ヲ受クルコトナシト雖モ公務員ノ  
犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ本法第六十五條第一項ノ規  
定ニ依リ共犯者トシテ本條ヲ適用セラレベキモノトス公務員トハ如何ナル者  
ナルカニ付テハ第七條ノ下ニ説明スベシ

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スル  
コトヲ妨グズ

但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキ  
ハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコト得

凡ソ行為ノ犯罪タルヤ否ヤハ一ニ內國ノ法律ニ依リ定ムベク外國法ニ於テ犯  
罪ト爲スヤ否ヤハ全ク問フヲ要セズ從テ外國法ニ從ヒ爲シタル外國裁判所ノ

裁判ガ内國裁判所ノ裁判ニ對シ何等ノ關係ヲ有セザルハ勿論ナリトス故ニ一  
 旦外國裁判所ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ既ニ其刑ノ執行ヲ終リタルトキト雖モ  
 内國裁判所ニ於テ同一行為ニ付キ更ニ有罪ノ判決ヲ言渡シ之レガ執行ヲ爲ス  
 ニ何等ノ妨グナシトス然レドモ例令外國ノ法律ニ依リ外國ニ於テ處罰セラレ  
 タリトハ云ヒ既ニ其行為ニ付キ罰セラレタル者ニ對シ必シモ再ビ内國ニ於テ  
 之レガ處罰ヲ爲スノ要ナキノミナラズ往々却テ條理ニ反スルコトナシトセズ  
 是レ本條第一項ニ於テ其原則ヲ示スト同時ニ第二項ニ於テ既ニ外國裁判所ニ  
 於テ有罪ノ確定判決ヲ受ケ其刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタル者ニ對シ再  
 ビ内國ニ於テ同一行為ニ付キ有罪ノ裁判ヲ言渡ス場合ニハ其刑ノ執行ヲ減輕  
 又ハ免除スルコトヲ得ト規定シタル所以ニシテ本條第一項ハ寧第二項ヲ呼ビ  
 起ス爲メニ設ケラレタルモノト解スルヲ正當トス而シテ其外國裁判所ノ裁判  
 ガ確定シタルヤ否ヤ犯人ガ既ニ其刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタリト見ル  
 ベキヤ否ヤハ其外國ノ法律ニ依リテ判斷スルヲ要ス  
 内國裁判所ニ於テ本條ニ依リ被告ニ有罪ノ判決ヲ言渡スニハ始メ普通ノ場合  
 ニ於ケルト同シク刑ノ言渡ヲ爲シ其主文ニ於テ其刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除ス

ルコトヲ附言スルニ止ムベク決シテ酌量減輕又ハ各本條ノ規定ニ依リ刑ノ一  
 部又ハ全部ヲ免除スルガ如ク刑其者ノ一部ヲ減輕シ又ハ免除シテ無罪ヲ言渡  
 スヲ得ズ之レ法文ニ於テ特ニ本條ノ場合ニハ刑ノ執行ノ一部又ハ全部云々  
 ト規定シ酌量減輕又ハ其各本條(第八十條第百七十三條第百九十八條第二百四  
 十四條等)ニ於テ刑ノ減輕又ハ免除ナル文字ヲ用ヒタルニ由ルモ明カナリトス  
 第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス  
 本條ハ刑法ノ時ニ關スル効力ヲ規定シタルモノナリ凡ソ法令ハ實施ノ時ヨリ  
 廢止ノ時迄効力ヲ有スルヲ原則トス而シテ其實施ノ時期ハ其法令ニ特別ノ定  
 メナキ限り法律ニ付テハ法例第一條ニ依リ勅令其他ノ命令ニ付テハ公文式ニ  
 依リ之ヲ定ム  
 法令ノ廢止ニ其法令自身ニ存スル原因ニ依リ廢止セラル、場合ト他ノ法令ニ  
 依リ廢止セラル、場合トアリ假令バ法令ニ其實施期間ヲ定メタルガ如キハ前  
 者ニ屬シ新ナル法令ノ實施ニ依リ舊法ヲ廢止スルガ如キハ後者ニ屬ス而シテ  
 後ノ場合ニハ明示ノ廢止ト默示ノ廢止トノ二アリ明示ノ廢止トハ新法ニ於テ  
 舊法ヲ廢止スル旨ヲ明言スル場合ヲ云ヒ默示ノ廢止トハ後ニ發布セラレタル

法令が舊法ト抵觸スル場合ニ國家意思ノ單一ナル原則ヨリ推定シテ新法ハ舊法ニ優ルトノ法理ニ基キ其抵觸スル範圍ニ於テ舊法ガ廢止セラレタリト爲ス場合ヲ云フ

刑法モ亦以上説明シタル一般ノ原則ニ從ヒ其實施ノ時ヨリ廢止ノ時迄効力ヲ有スルモノトス然レドモ之レ單ニ法令解釋上ノ原則ニ過ギズシテ立法上之レガ例外ヲ設クルニ何等ノ妨グナキノミナラズ新法ノ下ニ於テ舊法時代ニ罰シタル行爲ヲ罰スルノ規定ヲ設ケザルカ又ハ舊法ヨリ輕キ刑ヲ科スルハ舊法時代ノ刑ヲ不當ト認メタルモノニシテ寧此ノ如キ場合ニハ新法ヲ舊法時代ニ溯及セシムルヲ正當トス之レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ法文ニハ犯罪後ノ法律ニ因リ云々ト規定セルヲ以テ犯罪ノ後新ナル法律ノ發布ニ因リ舊法ノ廢止セラレタルコトヲ要ス故ニ法命自身ニ定メタル原因ニ因リ廢止セラル、場合ニハ本條ノ適用ナシ

刑ノ輕重ニ付テハ何レ刑法ノ附屬法ニ之レガ比照法ヲ設ケラルベキモ若シ其輕重ナキカ又ハ其輕重ヲ比較シ得ザルトキニハ原則ニ從ヒ舊法ニ依リ處斷スルヲ要ス其新法ニ於テ全然舊法ノ刑ヲ廢止シタル場合ハ法文ニ所謂輕キモノ

ニ合マルベキハ勿論ナリトス而シテ判決ヲ言渡ス時ト行爲ノ時トノ間ニ他ノ法令ノ介在スルトキハ之レ等ノ法令全體ヲ比較シ其最モ輕キモノニ從フヲ要スルハ之レ亦説明ヲ要セズシテ明カナリ

犯罪ガ舊法時代ニ行ハレタルカ新法時代ニ行ハレタルカヲ決スルニハ先ヅ犯罪ノ時トハ如何ノ問題ヲ定ムルノ要アリ然レドモ此ハ犯罪ノ觀念ヲ明ニシタル後ニ於テ説明スルヲ便宜トスルヲ以テ犯罪ノ場所ト共ニ本論第七章ノ下ニ讓ル

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

本條ハ公務員及ビ公務所ノ定義ヲ與ヘタルモノニシテ間接ニ刑法ノ効力範圍ヲ規定シタルモノナリ公務員及ビ公務所ナル語ハ本法ノ創設ニ係リ舊法ニ於テハ官吏又ハ官署ニ關シテ規定シ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公吏公署ヲ官吏官署ニ準スベキ旨ヲ定メ僅ニ刑法適用ノ範圍ヲ擴張シタリト雖モ猶ホ他ニ國家ノ事務ニ從事スル數多ノ職員(各種議員ノ如キ)アリ而モ刑法上一私人ト

同一ノ規定ヲ適用スルコトノ不都合ナルヨリ此新術語ヲ設ケ本條ニ於テ其意  
義ヲ明カニシタルナリ

本條第一項ハ公務員ノ定義ヲ下セリ而シテ官吏公吏等ノ意義ハ行政法上決定  
セラルベキ觀念ニシテ學者間ニ異論ナキニ非ルモ其最モ穩當ナル說ニ從ヘバ  
官吏トハ任命ナル公法上ノ行為ニ依リテ國ノ事務ヲ擔任スルノ義務ヲ負フ者  
ニシテ統治者ニ對シテ特別ノ服從關係ニ立ツ自然人ヲ謂ヒ公吏トハ任命ノ形  
式ニ依ラズシテ(撰擧等ノ方法ニ因リ)如上ノ地位ヲ得ルモノニシテ其事務ノ國  
家又ハ公共團體ノ事務タルハ勿論ナリ而シテ法文ノ例示スル議員委員ノ如キ  
何レモ法令ニ依リ公務ニ從事スル點ニ於テ官吏公吏ト異ナルコトナキモ統治  
者又ハ公共團體ニ對シテ特別ノ服從關係ニ立タザル點ニ於テ同ジカラズ是レ本  
法ニ於テ之等ノ者一切ヲ包含セシムル爲メ官吏公吏ナル術語ノ外ニ公務員ナ  
ル文字ヲ採用シタル所以トス而シテ本項ニ所謂法令ニ依リ公務ニ從事ストハ  
公法關係ニ依リ公務ニ從事スルコトヲ意味スルヲ以テ私法上ノ雇傭關係ニ立  
ツ各官署ノ雇員ノ如キハ公務員ニアラズ

本條第二項ハ公務所トハ公務員ノ職務ヲ行フ處ヲ謂フト定義セリ本項ニ於テ

注意スベキハ法文ニ所謂公務所トハ公務員ノ職務ヲ行フ場所其者ヲ指スニ非  
ラズ官廳又ハ官署ナル文字ニ對シ用ヒラレタル文字ニシテ公務員ヲ以テ組織  
セラレタル國家又ハ公共團體ノ機關ヲ意味スルモノト解スルヲ要ス蓋シ法文  
ノ文字拙ニシテ恰モ公務員ノ職務ヲ行フ場所其者ヲ指シタルガ如キモ其然ラ  
ザルハ本法中公務所ナル文字ヲ用ヒタル法文第五百五十五條第六百六十條第六  
十五條第六百六十一條第二百四十二條第二百五十二條第二項第二百五十八條等  
ヲ一讀スルニ依リテ明カナリ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但シ其  
法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラズ  
之レ刑法ハ刑事法ノ一般法ナル性質上當然設ケラルベキ規定ニシテ他ニ何等  
説明ヲ爲スヲ須キス

## 第二章 刑

刑罰ハ犯罪ナル事實ニ附シタル法律上ノ効果ニシテ其内容ハ犯人ノ法益剝奪ニ  
アルコトハ前既ニ説明セリ而シテ今本章各條ノ解釋ヲ爲スニ先チ刑罰ニ關スル



一般的説明ヲ爲スコト左ノ如シ

一、刑罰權ノ主體及ビ客體 刑罰權ノ主體ノ國家ナルコトハ刑罰權ノ性質上明カナリ刑法ノ説明参照而シテ其客體ニ付テハ昔時犯人ノ相續人ニ迄刑罰ヲ科シ甚ダシキニ至リテハ其三族ニ及ボシタルコトアルモ法律上ノ責任ヲ凡テ個人ニ限局セラル、今日ノ法制ニ於テハ刑罰ハ犯人ニノミ科セラルベキモノトス但時ニ法律ハ例外ヲ設ケテ他人ノ行爲ニ付キ刑罰ヲ受クベキ場合ヲ認ム例令酒造税法第三十二條ノ如シ

二、刑罰權ノ基礎 國家ハ如何ナル理由ニ因リ犯人ニ刑罰權ヲ科スルカ換言スレバ國家刑罰權ノ存在理由如何トノ問題ハ古來學者ノ論争スル處ニシテ今ニ歸一スル處ナキモ其學說ヲ大別スレバ二トナル即チ純理主義利益主義之レナリ而シテ純理主義ノ論據ハ犯罪ハ正義ニ反スル行爲ナルヲ以テ之レニ刑罰ナル制裁ヲ科シ以テ國民ノ德義心ヲ満足セシムベク從テ犯人ノ性情如何ヲ問ハズ必ズ之レニ刑罰ヲ科スベシトナスニアリ之レ此主義ヲ一名絕對主義ト稱スル所以ナリ利益主義ノ論據トスル處ハ刑罰ハ社會ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ社會ニ害惡ヲ與ヘタル犯人ニ科スル制裁ニシテ犯罪鎮壓ノ手段ナリ從テ假令正

義ニ反スル犯罪行爲ナリト雖モ社會ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ必要ナラザル以上ハ之レガ處罰ヲ爲スノ要ナシト云フニアリ之レ一名相對主義ト稱スル所以ナリ而シテ新刑法ノ後說ヲ採用シタルコトハ其各本條ノ説明ニ由リテ明カナルベシ

三、刑罰權ノ効果 ハ一般的ト特別的トニ分ル一般的効果ハ犯罪ニハ恐ルベキ刑罰ナル制裁ノ伴フベキヲ豫告シ以テ一般人民ヲ威嚇シテ犯罪ヲ爲サハランムルニアリ特別的効果ハ犯人ノ隔離及矯正ニアリ即チ粹惡ニシテ到底救治ノ望ナキ犯人ハ社會ヨリ全然隔離シテ再ビ犯罪ヲ爲サシメザルノ要アリ其懲戒シテ改善ノ望アル犯人ハ其犯罪ヲ爲スノ危險ナキニ至ル迄社會ヨリ隔離スルト同時ニ之ヲ威嚇誘導シテ社會ノ良民トナスニアリ前者ニ對スル刑ハ死刑無期刑ニシテ後者ニ對スル刑ハ有期自由刑ナリトス而シテ財産刑ハ社會ヨリ隔離スル必要ナキ犯人ニ對シ單ニ矯正ノ爲メ科セラル、モノナリ

四、刑罰權ノ消滅 特定ノ犯人ニ對スル刑罰權ハ犯罪アルニ由リテ國家之ヲ取得ス而シテ之レガ消滅ノ原因ハ左ノ如シ

(1) 刑罰權ノ實行 實行ニ由リテ其目的ヲ達スルニ依リ之レガ消滅ヲ來スハ當

然ナリ

- (ロ) 犯人ノ死亡 客體ナキ刑罰權ノ存在セザルハ明カナリ
- (ハ) 恩赦 大赦特赦減刑復権ノ四種アリ
- (ニ) 時効 (第六章ノ説明参照)
- (ホ) 刑ノ執行猶豫期間ノ滿了 (第四章ノ説明参照)

第九條 死刑懲役禁錮罰金拘留及ビ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

本條ハ刑罰ヲ主刑及ビ附加刑ノ二ニ大別シ同時ニ主刑附加刑ニ屬スベキ各刑罰ヲ列擧シタリ而シテ主刑ト附加刑トノ法律上ノ差異ハ主刑ハ單獨ニ科シ得ルモ附加刑ハ主刑ト共ニスルニアラザレバ科シ得ザルニ在リ其各刑ノ内容ニ付テハ次條以下ニ之ヲ規定ス令本條ニ列擧シタル各刑ヲ拘奪セラル、犯人ノ法益ヲ標準トシテ分類スレバ左ノ如シ

- 一、生命刑 死刑
- 二、自由刑 懲役禁錮拘留
- 三、財産刑 罰金科料沒收

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ

以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同ジキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス  
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ビ短期若クハ寡額ノ同ジキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

本條ハ刑ノ輕重ヲ定ムベキ標準ヲ示シタル實際ニ於テ刑ノ輕重ヲ定ムルノ必要ハ法文第三十八條第二項第四十七條第四十九條第五十一條第五十四條第六十五條第二項第二百二十四條第二項第四百四十五條第九十六條第二百零六條第二百零七條等ノ規定アルニ依リ明カナリ法文ニ所謂長期多額及ビ短期寡額トハ各本條ニ規定シタル法定刑ノ最大限及ビ最小限ヲ意味シ本法第十三章ノ規定ニ依リ各本條ノ刑ヲ加重減輕シタルモノヲ云フニ非ラズ而シテ本條第三項ハ二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ビ短期若クハ寡額ノ同ジキ同種ノ刑ハ犯罪ノ情狀ニ依リ其輕重ヲ定ムベキ旨規定セルヲ以テ若シ二個以上ノ犯罪ニシテ其犯情ニ輕重ナキトキハ如何ニスベキヤノ問題ヲ生ズト雖モ之レ等

實際ニアリトスルモ甚ダ稀有ノコトナルベク法文ノ解釋トシテハ如何ナル場  
合ニ於テモ犯情ニ輕重アリトナシタルモノト解スルノ外ナシ

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマデ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ビ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ビ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得  
之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降  
スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハザル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役

場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハザル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留  
置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト  
能ハザル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承  
諾アルニ非ザレバ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ズ

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額  
ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ  
留置一日ノ割合ニ滿タザル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ズ

前記數條ノ解釋ハ法文自體ニ依リ其意義明瞭ナルヲ以テ説明ハ凡テ之ヲ省略  
ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一、 犯罪行為ヲ組成シタル物  
 二、 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物  
 三、 犯罪行為ヨリ生ジ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ル  
 本條ニ依リ沒收ヲ言渡スニハ一、沒收セラルベキ物件ガ犯人ノ所有ナルカ又ハ何人ノ所有ニモ屬セザルコト二、本條第一項ニ列舉セル物件ノ何レニカ該當スルコトノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス沒收セラルベキ物件ガ犯人ノ所有ニ屬スルコトヲ要スルハ沒收ノ刑罰ナル性質ヨリ生ズル當然ノ結果ナリ從テ何人ノ所有ニモ屬セザル物件ヲ沒收スルハ理論上刑罰ト目スベキモノニアラズ寧ろ行政上ノ處分ト解スルヲ正當トス然レドモ本法ニ於テハ如何ナル場合ニモ附加刑トシテ沒收ヲ言渡スベキモノトナシタルニヨリ解釋論トシテハ此場合モ刑罰ナリト云フノ外ナシ犯罪行為ヲ組成シタル物トハ舊法ニ所謂法律ニ於テ禁制シタル物件ニ該當シ其物ノ存在ガ一定ノ犯罪構成條件ノ一ヲ爲ス物件ヲ云フ假令ハ本法第四百十條ノ罪ノ阿片煙吸食ノ器具ノ如シ但シ從來判例ニ於テ罪體ト稱シタル者モ此内ニ入ルベキモノトス犯罪行為ニ供シ又ハ供セント

シタル物トハ犯罪ノ實行々爲ニ供シ又ハ供セントシタル物ヲ云フ故ニ犯罪ノ既遂タルト未遂タルトヲ問ハズ苟クモ犯罪ノ實行ニ供シタル以上ハ其ニ犯罪行為ニ供シタル物タルコトハ明カナリ而シテ其供セントシタル物トハ實行ニ入ラザル着手未遂ノ行為ニ用ヒラレタル物ハ勿論單ニ犯罪ノ用ニ供センガ爲メ準備セラレタル物ヲモ包含スト解スルヲ要ス但シ沒收ノ附加刑タル性質上主刑ヲ言渡シ得ル場合ニ限ルハ勿論ナリ故ニ人ヲ毆打センガ爲メ棍棒ノ類ヲ準備スルモ其準備行為自身犯罪トナラザルヲ以テ主刑ナク從テ之レガ沒收ノ附加刑アリ得ザルナリ犯罪行為ヨリ生ジ又ハ之ニ因テ得タル物トハ犯罪行為ヲ原因トシテ犯人ガ直接ニ其占有ヲ得タル物ヲ云フ其生シト困リテ得タルトノ區別ハ單ニ其物ガ犯罪行為ニヨリ新ニ製出セラレタルヤ否ヤニ存シ其法律上ノ効果ニ於テ何等ノ差異ヲ存セズ直接ニ得タル物ナルコトヲ要スルガ故ニ其物ト交換シテ得タル物ヲ含マザルハ言ヲ俟タズ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非ザレバ沒收ヲ科スルコトヲ得ズ但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラズ

拘留又ハ科料ヲ主刑トスル犯罪ハ極メテ輕微ナル犯罪ナルヲ以テ各本條ニ特別ノ規定ナキ限リ沒收ノ附加刑ハ科セザルナリ蓋シ斯ル輕微ノ犯罪ニ尙ホ沒收ノ例ヲ用フルトキハ往々主刑トノ權衡ヲ失シ刑罰其當ヲ失スル虞アルヲ以テナリ假令車馬通行禁止ノ場所ニ馬車ヲ乘入レタル場合ノ如シ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

本條ハ立法論トシテハ幾多ノ論議ヲ値スベキ問題ヲ有スルモ解釋論トシテハ何等疑問ノ生ズベキ餘地ナシ只一言注意スベキハ法文ニ所謂未決拘留トハ犯罪審理ノ爲メ國家機關ノ正當ナル權力ノ行使ニ依リ監獄内ニ拘禁セララル、ヲ云フ

### 第三章 期間計算

既ニ刑罰ニ於テ自由刑ヲ設ケ一定ノ期間犯人ノ自由ヲ剝奪スル以上ハ如何ニ其期間ヲ計算スベキヤノ問題ヲ生ズ而シテ尙ホ時効期間刑ノ執行猶豫ノ期間等ニ付キ等シク其計算法ヲ定ムルノ要アリ是レ即チ本章ノ規定アル所以トス

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタル時ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

月ニ大小アリ年ニ平閏アリ其長短ヲ異ニスルモ曆ニ從ヘバ同シク月年ナリ刑期ノ計算亦之ニ從フ故ニ普通ニ一月ヲ三十日トシ一年ヲ三百六十五日ト爲スト異レリ日ニ付キテハ第二十四條ニ依リ受刑及ビ時効ノ初日ハ時間ヲ論ゼズ一日ニ計算シ其以後ハ同シク曆ニ從フ

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セズ

本條第一項ハ裁判確定ノ日ヨリ刑期ヲ起算スベキ旨規定セリ裁判確定ノ日トハ其裁判ニ對シ故障又ハ上訴ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ザルニ至リタル日ヲ云ヒ其裁判ノ何時確定スベキヤハ一ニ刑事訴訟法ノ規定ニ依リテ定マル本條第二項ニ所謂拘禁セラレザル日數トハ初メヨリ拘禁セラレザルト一旦拘禁セラレ逃走ニ因リ拘禁ヲ脱シタルトヲ問ハズ等シク拘禁セラレザル日數トシテ刑期ニ算入スルコトヲ得ズ蓋シ然ラザレバ逃走其他ノ事由ニ因リ刑ノ執行ヲ受ケズシテ刑ノ執行ヲ終ルガ如キ不條理ナル結果ヲ生ズ可ケレバナリ但シ法令ニ特別ノ規定アル場合ハ此限リニ非ルハ勿論ナリ假令バ假出獄ノ場合ノ如シ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論ゼズ全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

本條ニ付テハ特ニ説明ノ要ナシ

### 第四章 刑ノ執行猶豫

刑ノ執行猶豫ハ輒近ノ制度ニ係リ從テ立法上幾多論議ノ餘地ヲ存スト雖モ要ハ犯罪ヲ防遏セントスル刑法ノ目的ヲ達スルニハ必ズシモ犯罪必罰ノ原則ヲ固守スルノ要ナシト云フニ在リテ其根據トスル處ハ刑罰權ノ基礎ヲ利益主義ニ置クニアリ蓋シ犯人ノ種類タル千態萬狀惡ムベキアリ憐ムベキアリ必ズシモ一律ヲ以テ論ズルコトヲ得ズ或ハ一時ノ感情ニ激セラレ或ハ社會ノ境遇ニ驅ラレ終ニ罪畔ニ觸ル、ニ至ルモ既ニ刑罰ヲ受ケザルニ先チ良心ノ呵責ニ遇ヒ翻然トシテ前非ヲ悔イ再ビ罪ヲ犯スノ虞ナキニ至ル者ノ如キ敢テ刑罰ヲ科スルノ要ナシ然ルニ刑法ハ常ニ之ヲ罰シテ假借スルコトナキトキハ如此犯人モ獄中ノ惡風ニ馴レ不治ノ惡性ヲ供フルニ至ルコトアリ殊ニ短期ノ自由刑ハ懲戒ノ目的ヲ達スル

コト甚ダ難ク却テ再犯増加ノ一大原因ヲ爲スノ虞アリ是レ實ニ短期自由刑ノ通弊トス而シテ此通弊ヲ除キ刑法ノ犯罪防遏ノ目的ヲ達センガ爲メニハ短期自由刑ノ執行ヲ猶豫スルニ在リ蓋シ此方法ニ因ルトキハ一方ニ於テ犯人ニ對シ國法ノ威嚴ヲ示スト同時ニ他方ニ於テ他ノ犯人ノ惡風ニ感染スルノ虞ナク善行ニ遷ラシムルコトヲ得ベケレバナリ是レ即チ本章ノ規定アル所以トス

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一、 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二、 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七ケ年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキモ

本條ハ刑ノ執行猶豫ヲ爲スニ要スル條件ヲ定メタリ即チ

- 一、 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ナルコト
- 二、 罰金科料ニ付キ刑ノ執行ヲ猶豫セザルハ短期自由刑ノ通弊ヲ除カンガ爲メ

設ケタル本制度當然ノ結果ナリ拘留ニ付キ尙ホ其執行ヲ猶豫セザルハ後ニ説明スルガ如ク拘留ニ付テハ行政官廳ノ處分ニ因リ何時ニテモ假出場ヲ許スコトヲ得ルト拘留場ニ留置セラル、犯人ハ何レモ輕微ナル罪ヲ犯シタル者ニ限り他ノ犯人ノ惡風ニ感染スルガ如キ虞ナキトヲ以テナリ

二、本條第一、二號ノ何レカーニ該當スル者ナルコト

蓋シ既ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ尙ホ改善セズシテ再ビ罪ヲ犯シタル者ノ如キハ寧重刑ヲ科スルノ要アリ然レドモ一旦禁錮以上ノ刑ニ處セラレタリトハ云ヒ其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年モ素行ヲ慎ミ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ハ再犯時効ノ制ヲ設ケタル本法ノ精神ヨリスルモ初犯者ト同一ニ取扱フヲ相當トスルヲ以テ此ノ如キ者ニ對シテモ刑ノ執行猶豫ヲ爲シ得ベキモノト爲シタルナリ而シテ法文ニ所謂刑ニ處セラレタルトハ有罪ノ確定判決ヲ受ケタルコトヲ云フ

三、刑ノ執行猶豫ニ適スル情狀アル犯人ナルコト

其情狀ノ果シテ刑ノ執行猶豫ニ適スルヤ否ヤハ一ニ裁判官ノ認定ニ依ル

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一、猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、前條第二號ニ記載シタル者ヲ除外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

本條ハ言渡シタル刑ノ執行猶豫ヲ取消スベキ場合ヲ規定セリ而シテ刑ノ執行猶豫取消ノ原因ニハ刑ノ執行猶豫言渡前ニ發生シタルモノト後ニ發生シタルモノトノ二アリ本條第三號ノ場合ハ前者ニ屬シ第一號第二號ノ場合ハ後者ニ屬ス猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ之レガ取消ヲ爲スベキハ言フ俟タズ蓋シ刑ノ執行猶豫ハ猶豫期間内素行ヲ慎ミ再ビ刑辟ニ觸ル、ガ如キ行爲ヲ爲サリシ者ニ對シ刑罰ヲ科スルノ要ナシト認メ犯罪必罰ノ原則ニ一ノ例外ヲ開キ全然刑ノ言渡ナカリシト同一ニ看做スモノナリ然ルニ若シ其期間内再ビ他ノ罪ヲ犯スガ如キ者ハ全ク國法ノ威嚴ヲ無視シ改悛ノ實ナキ者ナルヲ以テ犯罪必罰ノ原則ニ復シ直ニ之レガ執行ヲ爲スベキハ當然ナレバナリ但シ法文ニ依レバ猶豫期間内ニ犯シタル罪ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルヲ要スルヲ以テ罰金以下ノ刑ニ處セラル、モ取消ノ原

因トナラザルハ勿論假令禁錮以上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シタル場合ト雖  
 ドモ猶豫期間ハ其有罪ノ判決確定セザルトキハ取消ノ原因トナラズ蓋シ猶豫  
 期間内禁錮以上ノ刑ニ該ルベキ罪ヲ犯シタルトキハ其判決ノ確定シタルト否  
 トヲ問ハズ直ニ之レガ取消ヲ爲スハ正當ナルガ如キモ法文ニ確定判決ノ存在  
 ヲ條件トシタルハ判決確定前ニハ果シテ此ノ如キ行爲アリタルヤ否ヤ確認シ  
 得ザルヲ以テナリ本條第二號三號ノ場合ハ二者共ニ猶豫ノ言渡前ニ禁錮以上  
 ノ刑ニ該ルベキ罪ヲ犯シタルコトハ同一ナルモ第二號ノ場合ハ猶豫ノ言渡後  
 ニ有罪ノ判決確定シタル場合ニシテ第三號ノ場合ハ有罪ノ判決猶豫ノ言渡前  
 ニ確定シ只其確定判決アリタルコトガ言渡後ニ發覺セラレタル場合ナリ蓋シ  
 猶豫ノ言渡ヲ爲スニ當リ既ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト明カナル以上  
 ハ刑ノ執行猶豫ヲ爲ス條件ヲ缺クコト、ナリ之レガ言渡シヲ爲スベキモノニ  
 アラズ從テ其言渡ヲ取消スベキハ當然ナリ但シ刑ノ言渡シアルモ前條第二號  
 ニ該當スル場合ハ刑ノ執行猶豫ノ條件ニ抵觸セザルヲ以テ法文ハ此場合ヲ除  
 外シタリ而シテ法文ニ所謂發覺トハ執行猶豫ノ取消シヲ爲シ得ベキ官廳ニ執  
 行ノ猶豫言渡前七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ確認セラレタ

ルヲ云フ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過  
 シタルトキハ刑ノ言渡ハ其効力ヲ失フ

本條ハ刑ノ執行猶豫ノ條件成就ノ効力ヲ規定セリ故ニ刑ノ執行猶豫ノ言渡ノ  
 効力ト混同セザルコトヲ要ス蓋シ猶豫ノ言渡ノ効力ハ單ニ刑ノ執行ヲ猶豫シ  
 一定ノ期間猶豫ノ言渡ヲ取消サレザルトキハ刑ノ言渡ノ効力ヲ消滅セシムベ  
 キ條件付効力ヲ發生スルニ止ルモ一旦此條件ニシテ成就センカ此ニ始メテ確  
 定的ノ効力ヲ生シ全ク刑ノ言渡ノ効力ヲ消滅セシメ恰モ刑ノ言渡ナカリシト  
 同一ノ状態ニ置カル、モノナリ明治三十八年法律第七十號ハ條件成就ノ効力  
 ヲ單ニ執行ノ免除ニ止メ判決其者ノ効力ヲ消滅セシメザリシヲ以テ刑ノ執行  
 ヲ受ケザル點ヲ除キ有罪ノ確定判決ニ伴フ他ノ法律上ノ効果ヲ免ル、コトヲ  
 得ザリシモ斯クテハ尙ホ他ノ法律ニ於テ犯罪者ト同一ニ取扱フコト、ナリ全  
 然改悛ノ狀ニ在ル者ヲ遇スルノ道ニアラズトシ本法ノ如ク改正セラレタルナ  
 リ但シ此ニ一言注意スベキハ假令判決ノ効力ヲシテ全然消滅セシムト雖モ之  
 レガ爲メ其行爲が犯罪ニ非ラザルモノト看做シタルニ非ラズ從テ其行爲ニ加



擔シタル者ヲ共犯教唆犯從犯トシテ處罰スルニ何等ノ妨ゲナシトス

四〇

## 第五章 假出獄

假出獄ハ刑ノ執行猶豫ト異ナリ刑ノ執行ニ着手シタル後行政官廳ノ處分ニ依リ刑ノ執行ノ幾部ヲ免除スルニ存シ其處分ヲ取消ナル、コトナクシテ刑期滿了スルモ確定判決ニ伴フ他ノ法律上ノ効果ハ依然トシテ存在シ何等ノ影響ヲ與フルコトナシ

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

本條ハ假出獄ヲ許スベキ條件ヲ規定シタルモノトシテ特ニ説明ヲ爲スノ要ナシ

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一、假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二、假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スコトキ

四、假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セズ

本條第一項ハ假出獄ノ處分ヲ取消シ得ベキ場合ヲ列擧セリ而シテ其列擧ノ場合ト雖モ刑ノ執行猶豫ノ取消ト異ハリ必ズシモ之レヲ取消スノ要ナク一ニ行政官廳ノ自由裁量ニ依リテ決セラレベキモノトス

本條第二項ハ假出獄ノ處分ヲ取消シタル場合ニ其出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザル旨規定セリ然レドモ如此ハ本法第二十三條第二項ニ拘禁セラレザル日數ニ該當シ此規定ヲ俟テ後知ルベキ事項ニアラズト雖モ法律ハ假出獄ノ効果トシテ拘禁セラレタルト同一ノ効力ヲ生ズルモノト解スル處アルヲ慮カリ注意的ニ規定シタルモノト解スルノ外ナシ

第二十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハザルニ因リ留置セラレタル者亦同ジ

本條ハ罰金以上ノ刑ニ付テハ假出獄ノ制度ニ對シ設ケラレタルモノト解スル  
 ヲリ寧刑ノ執行猶豫ノ制度ニ對シ設ケラレタルモノナリ蓋シ斯ル輕微ナル犯  
 罪ニ付テハ執行猶豫ノ如キ複雜ナル規定ニ依ラズ情狀ニ因リ便宜行政上ノ處  
 分ヲ以テ其執行ヲ免除スルヲ適當トスレバナリ而シテ假出獄ノ効力ヲ單ニ刑  
 ノ執行ヲ免除スルニ止メ刑ノ言渡ノ効力ヲ消滅セシメザルハ行政上ノ處分ヲ  
 以テ司法機關ニ依テ行ハル、裁判ノ効力ヲ消滅セシムルハ法理上許ス可ラザ  
 ルノミナラズ拘留又ハ科料ヲ言渡ス裁判ニハ禁錮又ハ罰金以上ノ刑ヲ言渡ス  
 裁判ニ付テガ如キ他ノ法律上ノ効果ナキニ由リ從テ之レガ裁判ノ効力ヲ消滅  
 セシムル必要ナキヲ以テナリ

### 第六章 時効

刑事法上ニ於ケル時効ニ二アリ一ハ公訴權ノ時効ニシテ一ハ確定判決ニ依リ特  
 定セラレタル刑罰權ノ時効ナリ從テ前者ハ手續法タル刑事訴訟法中ニ規定セラ  
 レ後者ハ實體法タル刑法中ニ規定セラル刑法上ニ於ケル時効ハ一定ノ時間或ル  
 狀態ノ繼續スルコトニ因リ確定判決ニ依リ特定セラレタル刑罰權ノ消滅ヲ來ス

原因ナリ故ニ時効ノ完成ニハ法定時間ノ滿了及ビ法定狀態ノ繼續スルコトノ二  
 條件ヲ要ス法定時間ハ各刑罰ノ輕重ニ依リ異ナリ本法第三十二條ニ之ガ規定ヲ  
 設ク而シテ法定狀態ハ不法ニ刑罰ノ執行ヲ免ル、ヲ以テ其内容ト爲ス  
 不法ニ刑罰ノ執行ヲ免レタル者ニ對シ國家ハ何故ニ刑罰ノ執行ヲ免除スルコト  
 ニ付テハ學說一ナラズ或ハ一定ノ年月ヲ經過スルニ由リテ社會ガ犯罪ヲ遺忘シ  
 タルガ爲メナリトナシ或ハ犯人ガ多年刑罰ヲ免ル、ニ苦心シタルハ恰モ刑罰ノ  
 執行ヲ受ケタルト同一ノ苦痛ヲ受ケタル爲メナリトナス然レドモ之等ハ未ダ以  
 テ時効制度ノ本旨ヲ闡明シタルモノト云フヲ得ズ蓋シ社會ノ遺忘ハ犯罪ノ消滅  
 ニアラズ刑罰ト同一ノ苦痛ヲ受ケタルコトハ刑罰ノ執行ニアラズ從テ必要アルニ  
 於テ國家之ヲ罰スルハ犯罪必罰ノ原則ヲ維持スルモノニシテ何等ノ妨ゲナシ要  
 之ニ時効制度ノ本旨ハ國家ガ事實ノ勢力ヲ認メ刑罰ノ執行ヲ免除スルヲ必要ト  
 爲シタルニ由ル蓋シ一ノ犯罪後新ニ發生シタル事實關係ガ刑ノ執行ナク一定ノ  
 年月ヲ經過スルトキハ時間的根底ヲ有スルニ至リ之ヲ罰スルニ因リ却テ平地ニ  
 波瀾ヲ起スノ結果ヲ生ジ社會ノ秩序ヲ維持スルヲ以テ目的トスル刑罰權ノ基礎  
 觀念ニ存スルヲ以テナリ

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得  
刑ノ言渡ヲ受ケタル者トハ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ヲ云フ而シテ其執行  
ノ免除ヲ得ルハ時効ノ効果ナルコトハ前説明ニヨリ明カナリトス

第三十二條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケザルニ因リ  
完成ス

- 一、死刑ハ三十年
  - 二、無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
  - 三、有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年三年以上ハ十年三年未満ハ五年
  - 四、罰金ハ三年
  - 五、拘留科料及ビ沒收ハ一年
- 本條ハ時効ノ起算點及ビ時効ノ内容ニ付キ規定セリ即チ時効期間ノ起算點ハ  
有罪ノ判決確定ノ日ニ始リ其裁判確定ノ日ヲ全一日トシテ時効期間ニ算入ス  
ベキハ本法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ明カナリ時効ノ内容ハ一定ノ期間  
刑ノ執行ヲ受ケザルニアリ其期間ハ各刑ニ付キ本條第一號乃至第五號ノ定ム  
ル處ニシテ立法者ガ右ノ期間ヲ以テ時効完成ニ相當ト認メタルニ過ギズシテ

他ニ特別ノ理由アルニアラズ

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行  
セズ

本條ハ時効停止ノ原因ヲ規定セリ蓋シ刑ノ執行ヲ受ケザルコトニ因リ時効ヲ  
完成セシムルニハ其執行ヲ受ケザルコトガ不法ノ原因ニ基クコトヲ要ス換言  
スレバ犯人ガ法令ニ依ラズ私ニ刑ノ執行ヲ免レ居ルコトヲ要ス然ルニ刑ノ執  
行ヲ猶豫シ又ハ假出獄ヲ許シテ之レガ執行ヲ停止シタル場合ノ如キハ國家ガ  
法令ニ依リ刑ノ執行ヲ爲サザルモノニシテ從テ刑ノ執行猶豫又ハ假出獄ノ期  
間時効ノ進行ヲ停止スベキハ當然ナリ

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス  
罰金科料及ビ沒收ノ時効ハ執行々爲ヲ爲シタルニ因リ中斷ス

時効ハ法定ノ期間刑ノ執行ヲ受ケザルニ因リ完成ス從テ其期間ノ滿了セザル  
ニ先チ刑ノ執行アリタルトキハ其完成ヲ妨グベキハ當然ナリ刑ノ執行々爲ノ  
如何ナルモノナルカハ刑其者ノ内容ニ依リテ定マルベク其執行ヲ爲ス者ハ刑  
罰執行ノ權限ヲ有スル國家ノ機關ナルベキハ論ヲ俟タズ

刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕スルコトハ刑其者ノ執行ニアラザルコトハ明カナ  
 リト雖モ刑罰執行權ノ効果ナル點ニ於テハ刑ノ執行ト同一ナリトス之レ本條  
 第一項ニ於テ逮捕ヲ以テ時効中斷ノ原因ト爲シタル所以ナリ本條第二項ハ之  
 レガ規定ナクモ時効ノ本質上同一ノ解釋ニ歸スベキハ當然トス而シテ以上說  
 明スルガ如ク逮捕又ハ執行々爲アリタルトキハ此ニ時効期間ヲ中斷シ此ノ如  
 キ行爲アリタル點ノ期間ハ全ク何等ノ効ナキコト、ナリ再ビ執行ヲ免レタル  
 時ヨリ新ニ時効期間ヲ起算シ法定期間ヲ滿了スルニ非ラザレバ時効ヲ完成セ  
 ザルモノトス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

犯罪ハ如何ナル場合ニ於テ不成立ニ終ルベキカラ知ラント欲セバ先ヅ犯罪ハ如  
 何ニシテ成立スルカラ知ラザル可ラズ而シテ犯罪ノ成立條件ヲ明カニスルニハ  
 犯罪ノ内容ヲ研究スルコトヲ要ス之レ本章各條文ノ説明ニ入ルニ先チ犯罪ノ概  
 念ニ付キ説明ヲ爲ス所以ナリ  
 犯罪ハ行爲ナリ行爲ハ行動ト結果トヨリ成ル行動ハ意思發動ニ基ク身體ノ動靜

ニシテ結果ハ其身體ノ動靜ニ因リ現出シタル外界ノ現象(變動)ナリ然レドモ人類  
 ノ行動ハ意思ノ命令即チ其發動ガ吾人ノ筋肉ヲ通ジテ現ハレタル身體ノ動靜ニ  
 外ナラザルヲ以テ行動モ結果モ外界ノ現象タル點ニ於テハ一ナリ唯行動ハ身體  
 ノ動靜其者ニシテ結果ハ身體ノ動靜アリタル後之ニ因リ新ニ現出セラレタル第  
 二ノ現象タル點ニ於テ異ナルノミ  
 行動ハ筋肉ヲ通ジテ現ハレタル意思ノ發動ナリ而シテ意思ノ發動即チ命令ハ時  
 ニ筋肉ノ伸縮ヲ起シ時ニ筋肉ヲシテ静止ノ状態ヲ持續セシム筋肉ノ伸縮ニ因リ  
 現ハル、意思ノ發動ヲ動的行動即チ作爲ト云ヒ筋肉ヲシテ静止ノ状態ヲ持續セ  
 シムルコトニ因リ現ハル、意思ノ發動ヲ靜的行動即チ不作爲ト云フ  
 行動ハ筋肉ヲ通ジテ現ハレタル意思ノ發動ナリ意思ノ發動ナルガ故ニ器械的又  
 ハ生理的強制ニ依ル身體ノ動靜ハ此ニ所謂行動ニ非ラズ假令バ暴行者ニ手ヲ捉  
 ラレテ人ヲ毆打スルガ如キ或ハ癡癲發作ノ爲メ他人ノ財物ヲ毀棄スルガ如キハ  
 何レモ意思發動ニ基ク身體ノ動靜ニハ非ラザルナリ此ノ如ク器械的又ハ生理的  
 強制ニ依ラザル状態ヲ學者稱シテ任意ト云フ故ニ行動ハ任意ナル身體ノ動靜ナ  
 リト云フヲ得然レドモ任意ハ學者ノ所謂自由意思ト異ナリ其身體ノ動靜ガ器械

的又ハ生理的ノ強制ニ基カザルコトヲ以テ足リ果シテ其行動ヲ爲スニ付キ行爲者ニ撰擇ノ自由アリヤ否ヤハ全ク之ヲ問フヲ要セザルナリ

行爲ハ行動ト結果トヨリ成ル結果ハ行動ナル外界ノ現象ニ次テ現ハルベキ第二ノ現象ナリ凡テノ犯罪ノ成立ニ結果ノ發生ヲ必要トスルヤ否ヤニ付キ學者間ニ議論アリ或ハ殺人罪ノ如キ死ナル結果ノ發生ヲ必要トスルヲ以テ斯カル犯罪ヲ結果犯結果ノ豫見ヲ必要トセザル結果犯ト其意義異ナルト稱シ窃盜罪ノ如キ單ニ他人ノ財物ヲ窃取スル行動アルヲ以テ足リ刑法ハ他ニ結果ノ發生ヲ必要トセザルニ由リ斯カル犯罪ヲ非結果犯又ハ動作犯ト稱スト雖モ誤レリ蓋シ窃盜罪ノ場合ニ於テモ窃取ナル行動ノ終點即チ他人ノ財物ヲ自己ノ所持ニ移シタルコトハ亦一ノ結果ニ外ナラザルヲ以テナリ

作爲ハ筋肉ノ伸縮ニ因リテ現ハル、意思ノ發動ナリ此筋肉ノ伸縮ヲ身體ノ動作ト云フ身體ノ動作ハ其レ自身外界ノ變動ヲ爲ス而シテ此外界ノ變動ハ次テ第二ノ外界ノ變動即チ結果ヲ惹起ス從テ作爲ノ場合ニ於ケル結果ト身體ノ動作トハ互ニ原因結果ノ關係ヲ有セザル可ラズ之ヲ換言スレバ作爲ニ依ル吾人ノ行爲ハ因果關係ヲ有スル意思發動ニ至リ身體ノ動作ト結果トノ二個ノ外界ノ現象ヨリ

成立ス故ニ假令バ刀ヲ以テ人ヲ切りタル後其人ニシテ死スト雖モ其死ナル現象ニシテ切ルト云フ身體ノ動作ト因果ノ關係ヲ有セザルトキハ殺人ノ行爲アリタリト云フヲ得ズ然レドモ此ニ所謂因果關係ハ全ク身體ノ動作ト結果トノ物質的關係ヲ云フニ過ギズシテ後ニ説明スル引責理由トハ截然タル區別ノ存在スルコトヲ注意スルヲ要ス

如何ナル場合ニ於テ身體ノ動作ト結果トノ間ニ因果關係ノ存在スルヤハ刑法學上ノ難問題ニシテ學者ノ所說亦區々ニ分ルト雖モ之レ等ノ學說ニ付キ一々論評ヲ爲スハ此ノ如キ小冊子ノ爲シ得ベキ處ニ非ラズ故ニ余ハ最モ穩當ト信ズル學者ノ通説ニ從ヒ直ニ之レガ説明ヲ爲サント欲ス

身體ノ動作ト結果トノ間ニ因果關係ノ存在スルニハ此結果ヲ發生スルニハ此身體ノ動作アルコトヲ要ス換言スレバ此身體ノ動作ナカリセバ此結果ハ發生シ得ザリシノ關係存在セザル可ラズ而シテ此ニ所謂此結果トハ其時其場所ニ於テ發生シタル具體的ノ現象ヲ意味シ抽象的ニ一定ノ事實ヲ云フニアラズ蓋シ死ハ人生免ル可ラザル必然ノ運命ニシテ其到達ハ吾人ノ行動ヲ以テ如何トモスルコトヲ得ズ從テ若シ抽象的ニ死ナル現象ヲ目シテ殺人罪ノ結果トスルトキハ何人

雖モ殺人罪ヲ犯シ得ザルニ至ルベキヲ以テナリ然レドモ其身體ノ動作ニシテ結果ニ對シ如上ノ關係ヲ有スル以上ハ必ズシモ唯一ノ原因タルコトヲ要セズ其身體ノ動作以前ニ存在シタル又ハ同時ニ若クハ其後ニ發生シタル他ノ原因ト相俟テ其結果ヲ生ジタル場合ト雖モ因果關係アリト云フヲ妨グズ法律ガ犯罪ノ構成條件トシテ要求スル結果ハ單一ナルヲ通常トス蓋シ事實界ノ現象タル結果ハ更ニ原因ト成リテ新ナル結果ヲ惹起シ新ナル結果ハ又次ノ結果ヲ惹起シ此ノ如クシテ終ニ無終ニ至ルベキモノナリ假令バ殺人罪ノ場合ニ於テ人ヲ傷ケタル爲メ死ナル結果ヲ惹起シ次デ其妻子ハ扶養者ヲ喪ヒタル爲メ生計ニ窮シ終ニ他人ノ物ヲ窃取スルニ至ルガ如キ因果ノ關係ハ綿々トシテ窮極スル處ナシト雖モ殺人罪ニ於ケル法律ノ要求スル結果ハ單一ナル一個ノ現象ニ止リ妻子ノ生計ニ窮シ終ニ他人ノ物ヲ窃取スルニ至ルガ如キハ之ヲ問フヲ要セザルナリ然レドモ刑法第二百五條ニ於ケル傷害致死罪ノ如キ傷害ト死ナル二個ノ結果ハ發生ヲ要求スルコトアリ要之法律ガ如何ナル結果ノ發生ヲ犯罪ノ構成條件トナシタルカハ一ニ各條文ノ規定ニヨリ定マルベキモノトス

以上説明シタル因果關係ニハ二個ノ例外アリ

一、責任能力者ノ任意ニシテ且ツ故意アル行爲ハ法律上新ナル因果關係ノ進行ヲ開始シ前ノ任意ナル身體ノ動作ト現ニ發生シタル結果トノ間ノ因果關係ヲ遮斷ス

此例外法則ハ本法第六十一條第六十二條ノ解釋ヨリ生ズル論結ナリ結果ニ對スル原因ハ單一ナルコトヲ必要トセズ他ノ原因ト相俟テ一ノ結果ヲ發生スルモ因果關係ノ成立ニ妨グナキハ前ニ説明セリ而シテ其他ノ原因ノ人ノ行爲タルト他ノ事實タルトヲ問ハザルハ亦明カナリ然レドモ刑法ハ教唆犯ハ正犯ノ惹起シタル結果ニ對シ因果ノ關係ヲ有セズ單ニ正犯ノ行爲ニ加擔シタルモノト認メ從犯ニ付テモ亦同一ノ規定ヲ爲セリ此ノ如ク教唆及從犯ノ場合ニ於テ共ニ正犯ノ惹起シタル結果ニ對シ因果關係ヲ認メザルハ畢竟前掲ノ法則ヲ認メタルガ爲メニシテ從テ獨リ教唆及從犯ノ場合ニ限ラズ其法則ニ包含スル總テノ場合ニ於テ因果關係ヲ遮斷スト云ハザル可ラズ

二、基本タル犯罪行爲ガ他ニ豫見セザル重キ結果ヲ發生シタル爲メ刑ヲ加重スル犯罪刑法第一百八條第二項ノ罪第二百二十四條第二項ノ罪第二百二十六條第三項ノ罪第二百八十一條ノ罪第二百五條第一項ノ罪ニ於テ其豫見セザル重キ結果ト

身體ノ動作トノ間ニ因果關係ノ存在スルニハ其重キ結果ガ基本タル犯罪行為ニ因リ普通ノ狀況ニ從ヒ發生シタル場合ニ限リ法律上因果關係アリト云フコトヲ得ベシ從テ毆打ニ因リ創傷ヲ受ケタル者ガ治療中化膿シテ死シタルトキハ毆打ト死トノ間ニ因果關係ヲ存在スルモ被害者ガ治療ヲ受タル爲メ醫師ニ至ラントスル途中落雷ニ遭ヒ死シタル場合ノ如キハ法律上毆打罪ト死トノ間ニ因果關係ヲ存セズ

不作爲ハ結果ノ發生ニ對シ筋肉ヲ靜止セシムルコトニ因テ現ハル、意思ノ發動ナリ換言スレバ不作爲ハ結果ノ發生ヲ防止シ得ベキ身體ノ動作即チ作爲ヲ爲サザル意思ノ發動ナリ從テ不作爲ハ單ニ結果ノ發生ヲ防止セザルニ止マルガ故ニ結果ノ發生ヲ惹起シタルモノニ非ラズ之ヲ惹起シタルモノハ他ニ存在スル外界ノ勢力ナリトス故ニ不作爲ニ依ル吾人ノ行動ハ作爲ノ場合ニ於ケルガ如ク其結果ニ對シ因果ノ關係ヲ有スルモノニ非ラズ然レドモ不作爲ニ依ル吾人ノ行動ハ其結果ノ發生ニ對シ何等ノ關係ヲモ有セザルニ非ラズ作爲ニ依ル行動ト結果トノ間ニ因果關係ノ存在スルガ如ク不作爲ニ依ル行動ト結果トノ間ニ於テモ亦之レト類似ノ關係ヲ有ス即チ行爲者ガ結果ノ發生ヲ防止シ得ベカリシニモ拘ハラ

ズ防止シ得ベキ作爲ヲ爲サザリシ爲メ此結果ヲ發生シタリトノ關係之レナリ此關係ハ作爲ノ場合ニ於ケル因果關係ニ代ルベキ一種ノ關係ニシテ因果關係ト同一ノ價值ヲ有ス蓋シ作爲スベキ積極的義務ニ違反シタル不作爲者ガ其結果ニ對シテ責任ヲ負フハ反面ヨリ觀察スレバ權利ナクシテ不作爲ヲ爲シタルモノニシテ權利ナキ作爲者ガ其結果ニ對シ責任ヲ負フハ作爲ヲ爲サル消極的義務ニ違反シタルニ因ルト何等撰ブ處ナケレバナリ從テ作爲ノ場合ニ於テ説明シタル因果關係中斷ノ法則ハ不作爲ノ場合ニ於ケル因果關係類似ノ關係ニ對シ全然應用セラルベキモノトス

不作爲者ガ責任ヲ負フニハ義務ニ反シテ結果ヲ防止セザリシコトヲ要ス而シテ結果ノ發生ヲ防止スベキ義務ヲ負フ場合ハ法令ノ規定ニ依ル場合前ニ作爲シタル場合ノ二トス法令ニ依リ義務ヲ負フ場合ニ刑罰法令ニ依ル場合ト其他ノ法令ニ依ル場合トアリ吾人ガ刑罰法ニ依リ結果ノ發生ヲ防止スベキ作爲ノ義務ヲ負フハ刑罰法上命令ノ存スル場合ニ限ル從テ斯ル命令ニ反スル犯罪ハ必ず不作爲ニ依ラザル可ラズ故ニ學者此種ノ犯罪ヲ稱シテ純正不作爲犯ト云フ此場合ノ適例ハ舊刑法第三百四十條ノ罪ノ如シ蓋シ同條ノ反面ニハ自己ノ所有地又ハ看守

スベキ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知リタル者ハ幼者老疾者ヲ扶  
 助シ又ハ其旨官署ニ申告スベキ命令ヲ包含スルニ由ル前ニ作爲シタル爲メ作爲  
 ノ義務ヲ負フ場合ハ前行爲ヨリ生ズベキ結果ヲ防止スルコトガ普通ニ吾人ノ  
 務ト目セラルベキ場合ナリ假令バランブヲ轉覆シタル者ガ火ノ將サニ大事ニ至  
 ラントスルヲ防止スル義務ヲ負フガ如シ如斯吾人ガ刑罰法ノ命令以外ニ於テ結  
 果ノ發生ヲ防止スベキ義務ヲ負フ場合ニ其義務ニ違反シテ結果ヲ防止セザル爲  
 メ犯罪ヲ構成スルハ結局刑罰法ノ禁令ニ違反スルニ由ル而シテ刑罰法ノ禁令ニ  
 違反スルニハ必ズシモ不作爲ニ依ルヲ要セズ寧ロ作爲ニ依リテ行ハル、コト多  
 シ故ニ學者此種ノ不作爲ヲ稱シテ不純正不作爲犯ト云フ  
 凡テノ現象ガ時間ト空間トヲ離レテ存在シ得ザルガ如ク犯罪モ亦時ト場所トヲ  
 離レテ存在スルコトヲ得ズ從テ行動ト結果ト同一時同一場所ニ於テ發生シタル  
 トキハ其時及ビ場所ヲ以テ犯罪ノ時及ビ場所ト爲スニ付キ何等ノ疑ヲ生セズト  
 雖ドモ行動ト結果トガ時又ハ場所ヲ異ニシテ發生シタル場合ニハ結果ト行動ト  
 其中間トノ何レノ時何レノ場所ヲ以テ犯罪ノ時又ハ場所ト爲スベキカノ問題ヲ  
 生ズ此問題ニ付テハ學者間ニ異論アリト雖モ余ハ行動ノ時及ビ場所ヲ以テ犯罪

ノ時及ビ場所ト爲スヲ正當ト信ズ蓋シ刑法學上犯罪ノ時及ビ場所ヲ如何ニ決定  
 スベキカノ問題ハ主トシテ刑法ノ効力範圍ヲ定ムルニ在リ而シテ刑法ノ効力ハ  
 一定ノ時及ビ場所ニ於ケル吾人ノ行爲ヲ支配スルコトニ依リ犯罪ノ發生ヲ鎮壓  
 シ以テ國家ノ安寧秩序ヲ維持センガ爲メ外ナラズ果シテ然ラバ其發生ノ時及ビ  
 場所ガ任意ニ決定セラル、行動ノ時及ビ場所ヲ以テ犯罪ノ時及ビ場所ト爲スベ  
 ク其發生ノ時及ビ場所ガ偶然ニ定マルベキ結果又ハ仲間ノ時及ビ場所ヲ以テ犯  
 罪ノ時及ビ場所ト爲ス可ラザルハ當然ナリ尙以上ノ論定ハ時効及ビ再犯時効ニ  
 關シ適用セラルベキモノトス  
 犯罪ハ違法行爲ナリ違法行爲ハ國家ノ禁令命令ニ違反スル行動ト法律利益ヲ侵  
 害シ又ハ侵害スベキ危険ナル外界ノ變動即チ結果トヲ以テ其内容ト爲ス故ニ違  
 法行爲ハ行動ヨリ視レバ法令違反ノ行爲ニシテ結果ヨリ視レバ法律利益ニ對ス  
 ル攻撃ナリ學者前者ヲ違法行爲ノ形式的意義トシ後者ヲ違法行爲ノ實質的意義  
 ト爲ス違法行爲ヲ實質的ニ觀察スルトキハ前ニ説明シタルガ如ク法律利益ヲ侵  
 害スルモノト侵害ノ危険ヲ生ズルモノトアリ而シテ侵害ノ危険ニ具體的ノモノ  
 ト抽象的ノモノトノ二アリ具體的危険ハ現ニ實害ヲ生ズベキ危険ノ發生シタル



コトヲ要シ抽象的危険ハ現ニ實害ヲ生ズベキ危険ノ發生シタルコトヲ要セズ一  
般ニ其行爲ノ性質上危険ノ傾向アルヲ以テ足ル學者ノ所謂豫防罪トハ抽象的危  
險ヲ以テ實質トスル違法行爲ヲ意味シ犯罪ノ分類上警察犯(違警罪)トシテ配列セ  
ラル、モノナリ  
行爲ノ違法タルヤ否ヤハ一ニ客觀的ニ決定セラルベキモノニシテ後ニ説明スル  
行爲者ノ主觀的方面ヨリ觀察スル責任問題ト何等ノ關係ナキコトニ注意スルヲ  
要ス

實質的ニ觀察スルトキハ違法行爲ト同一ノ内容ヲ有スル行爲ナルニ拘ハラズ形  
式上特別ノ原因アルガ爲メ違法ヲ阻却シ違法行爲トナルコトアリ蓋シ國家ハ一  
般ニ或ル行爲ヲ以テ違法ナリト規定スルモ一方ニ於テ特別ノ理由アルトキハ他  
ノ法令ニ基キ之ヲ適法ト爲スヲ妨グズ而シテ其違法ヲ阻却スベキ特別ノ原因ハ  
左ノ如シ

- 一、一般ノ慣習上正當ト認めラレタル行爲
- 二、被害者ノ承諾
- 三、自己ニ對スル行爲

四、法令又ハ正當ノ業務ニ因ル行爲

五、正當防衛

六、危難防衛

以下順次之レガ説明ヲ爲スベシ

一、一般ノ慣習上正當ト認めラレタル行爲

假令ハ擊劍相撲其他ノ遊戯上ノ行爲ノ如シ尤モ之レ等ノ行爲ト雖ドモ其營業  
トシテ行フ者ハ正當ナル業務上ノ行爲トシテ本法第三十五條ノ適用ニ依リ違  
法ヲ阻却スベク此ニ論ズルハ業務上ノ行爲ニ屬セザルモノニ限ル而シテ一般  
ニ慣習上正當ト認めラル行爲ハ法律上如何ナル理由ニ依リ違法ヲ阻却スルカ  
此ノ問題ニ付テハ二様ノ説明ヲ爲スコトヲ得ベシ即チ一ハ本法第三百三十條ノ  
家宅侵入罪同第三百三十四條ノ隱私漏告罪ニ於テ故ナク行ヒタルコトヲ必要ト  
シタルハ一般ノ慣習上正當ト認めラレタル行爲ニ非ルコトヲ要件トシタルモ  
ノニシテ如此原則ハ斯カル特別ノ場合ニ限ラズ廣ク一般ノ犯罪ニ適用セラル  
ベキ刑法ノ趣旨ナリト解シ一ハ慣習法ノ成立ヲ主張スルニ在リ

二、被害者ノ承諾 吾人ノ享有スル法益中吾人ノ任意ニ處分シ得ベキモノト否ラ

ザルモノトアリ任意ニ處分シ得ベキモノハ享有者自ラ處分シ得ベキハ勿論他人ヲシテ代テ處分セシムルコトヲ妨グズ從テ斯ル法益ヲ處分スルコトニ付キ與フル被害者ノ承諾ハ他人ヲシテ處分ノ權能ヲ得セシムルコト、ナルヲ以テ此權能ニ基キ爲シタル行爲ノ違法トナルベキハ論ヲ俟タズ故ニ處分ノ權能ナキ法益ニ付テハ被害者ノ承諾アルモ違法排除ノ原因ト爲ラザルハ當然ナリ最モ被害者ノ意ニ反スルコトヲ以テ犯罪ノ成立條件トナシタルトキハ假令被害者ガ處分ノ權能ヲ有セザルモ之レニ對シ承諾ヲ與フルトキハ犯罪ノ成立ヲ妨グト雖モ此ノ如キ場合ハ承諾ガ違法ヲ阻却シタル爲メニ非ラズシテ犯罪ノ構成條件ヲ缺キタルガ爲メナリトス此ノ如キ場合ノ適例ハ強姦罪ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得

三、自己ニ對スル行爲 處分ノ權能アル自己ノ法益ニ對スル行爲ノ違法ナラザルコトハ前ノ説明ニ依リ既ニ明カナリ而シテ假令處分ノ權能ナキ法益ニ對スル場合ト雖モ被害者自ラ爲シタルトキニ限り違法ト爲ラザルコトアリ假令ハ自殺ノ如シ

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セズ

本條ノ前ニ説明シタル違法阻却ノ第四ノ原因ヲ規定シタルモノナリ凡ツ行爲ノ違法ナルヤ否ヤハ諸般ノ法令ヨリ觀察シテ決定スベキモノニシテ或ハ行爲ヲ一ノ法令ニ於テ違法トシ他ノ法令ニ於テ適法トナスガ如キハ國家意思ノ單一ナルベキ法理ト抵觸シ之レガ存在ヲ認容スルコトヲ得ズ故ニ本條ハ法令ニ因リ爲シタル行爲ハ假令犯罪行爲ト其實質ヲ同フスルモ違法ヲ阻却スルモノト爲シ之ヲ罰セズト規定シタリ法文ニ所謂法令ニ依リ爲シタル行爲トハ法令ノ規定ニ依リ有スル權限ニ基キ爲シタル行爲ヲ意味ス假令ハ豫審判事ガ犯人ヲ逮捕監禁シ親權者ガ子ヲ懲戒スルガ如シ然レドモ其違法ヲ阻却スルハ權限内ノ行爲ニ限ルベキヲ以テ一旦其權限ヲ超越スルトキハ其超越シタル部分ノ違法タルベキハ當然ナリ

私人ノ業務ニシテ國家ガ法令ヲ以テ之ヲ認メ又ハ一般ノ慣習ニ依リ認容セラレタルモノハ法文ニ所謂正當ナル業務ナリ假令ハ醫師產婆又ハ相撲等ノ如シ此等ノ業務ハ之ヲ行フニ當リ準據スベキ法令又ハ慣習アリ其法令又ハ慣習ニ從ヒ爲シタル行爲ハ違法ヲ阻却ス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムル

トヲ得ザルニ出タル行為ハ之ヲ罰セズ  
 防衛ノ程度ヲ超ニタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除ス  
 本條第一項ハ違法阻却ノ第五ノ原因タル正當防衛ヲ規定セリ舊刑法ハ殺傷ニ  
 關スル不論罪トシテ正當防衛ヲ規定シ防衛行為ハ加害者ニ對スル殺傷ニ限リ  
 且ツ身體生命又ハ財産ニ對スル或ル加害行為ヲ防衛スル場合ニ限リタルモ本  
 法ハ一般ノ學說ニ從ヒ總則ニ規定シ廣ク正當防衛ヲ認メタリ  
 正當防衛ハ侵害行為ニ對スル防衛ナリ從テ本條ノ意義ヲ明カニスルニハ如何  
 ナル侵害行為ニ對シ如何ナル防衛行為ヲ爲シ得ベキヤヲ説明スルヲ要ス  
 一、侵害行為ノ條件

- (イ) 侵害行為ハ人ノ行為タルコトヲ要ス 人以外ノ動物又ハ無機物ヨリ危害  
 ヲ生ズル場合ニ之ヲ排除スル行為ハ他ノ理由ニ依リ正當ノ行為トナルモ  
 正當防衛ト爲スヲ得ズ
- (ロ) 侵害行為ハ不正ナルコトヲ要ス 正當行為ニ對シテ正當防衛ナシ此ニ所  
 謂不正トハ違法ナルヲ云フ故ニ不正ナルヤ否ヤハ一ニ客觀的ニ決セラル  
 ベク從テ侵害者ガ責任能力ヲ有スルト否ト故意又ハ過失アルト否トハ全

ク之ヲ問フヲ要セズ苟クモ違法ノ侵害ナル以上ハ何人ニ對シテモ防衛ス  
 ルコトヲ得

- (ハ) 侵害行為ハ急迫ナルコトヲ要ス 急迫ナルトハ其侵害ノ現在ナルコトヲ  
 意味ス現在ノ侵害トハ侵害行為ノ既ニ始マリ繼續シツ、アルカ又ハ直ニ  
 始マルベキ狀態ニアルコトヲ云フ從テ未來ニ起ルベキ侵害又ハ既ニ終リ  
 タル侵害ニ對シ正當防衛ヲ存スルコトヲ得ズ蓋シ正當防衛ハ國家ノ公力  
 ニ依リ救済シ得ザルトキニ限り已ムヲ得ズ個人ノ救済ヲ許シタルモノナ  
 ルヲ以テナリ

二、防衛行為ノ條件

- (イ) 防衛行為ハ侵害者ニ對シテ行フコトヲ要ス 侵害者以外ノ者ニ對シ危險  
 ヲ避クル爲メニ爲ス行為ハ他ノ理由ニ依リ正當行為トナルベキモ正當防  
 衛タルコトヲ得ズ
- (ロ) 防衛行為ハ法益ヲ全フスルコトヲ目的トスルヲ要ス  
 其法益ノ自己ノモノタルト他人ノモノタルトハ之ヲ問ハズ其法益ノ種類  
 ニ付テモ亦何等ノ制限ナシ

(ハ) 防衛行為ハ已ムコトヲ得ザルニ出デタルコトヲ要ス 已ムコトヲ得ザル  
 トハ防衛スルコト自身ガ已ムコトヲ得ズト云フニアルカ又ハ防衛者ノ反  
 撃行為ガ防衛ノ目的ヲ達スルガ爲メニ已ムヲ得ザル程度ニアリシトノ意  
 ナルカ學者間ニ議論アリ後説ヲ採ル者ハ曰ク吾人ハ法益ヲ侵害セラレン  
 トスルニ當リ逃走ノ餘地ヲ有スルトキト雖モ逃走スベキ義務ヲ有セズ從  
 テ此ノ如キ場合ニ逃走スルコトナク其侵害ヲ防衛スルニ付キ必要ナル程  
 度ニ於テ反撃ヲ加フルコトヲ妨ゲズト然レドモ余輩ハ正當防衛ノ規定ガ  
 現今ノ法制上例外規定ニ屬スルヲ以テ嚴格ニ解スベキモノトシ前説ヲ正  
 當トスルモノナリ

本條第二項ハ防衛行為ガ其必要ノ程度ヲ超越シタル場合ヲ豫想シ其刑ヲ減輕  
 又ハ免除シ得ベキ旨規定セリ蓋シ此ノ如キ場合ハ多クハ冷靜ニ顧慮スルノ違  
 ナク往々騎虎ノ勢ニ驅ラレテ終ニ其程度ヲ超越スルニ至ルモノニシテ其情狀  
 普通ノ犯罪ニ比シ大ニ異ナル處アルヲ以テナリ

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命身體若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル  
 爲メ已ムコトヲ得ザルニ出デタル行為ハ其行為ヨリ生シタル害其避ケントシ

タル害ノ程度ヲ超エザル場合ニ限り之ヲ罰セズ但其程度ヲ超エタル行為ハ情  
 狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セズ

本條第一項ハ違法阻却ノ第六ノ原因タル危難防衛ニ付キ規定セリ  
 危難ハ一ノ状態ナリ學者或ハ之ヲ緊急状態ト云フ即チ自己又ハ他人ノ法律利  
 益ガ現在ノ危難ニ遭遇シタル爲メ第三者ノ正當ナル法律利益ヲ侵害スルニア  
 ラザレバ自己又ハ他人ノ法律利益ヲ全フシ得ザル状態ヲ意味スルナリ而シテ  
 此ノ如キ危難ヲ避クル爲メ第三者ノ法律利益ヲ侵害スル行為ヲ危難防衛ト云  
 フ然レドモ法律ハ其侵害シタル第三者ノ法律利益ガ全フシタル自己又ハ他人  
 ノ法律利益ノ程度ヲ超エザル場合ニ限り違法ヲ阻却スベキモノトナシタルヲ  
 以テ解釋論トシテハ其程度ヲ超エタル行為ハ一般ノ法則ニ依リ處罰セララルベ  
 キモノトス但シ其程度超越ノ行為ニ付テハ正當防衛ノ程度ヲ超エタル行為ト  
 同ジク情狀ニ於テ普通ノ犯罪ト異ナルヲ以テ其刑ヲ減輕又ハ免除シ得ベキモ  
 ノトセリ

今危難防衛行為ノ内容ヲ分析説明スレバ左ノ如シ

一、危難ハ現在ナルコトヲ要ス。此點ハ正當防衛ノ急迫ノ意義ト同一ナリ  
 二、危難ハ自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スルコトヲ要ス。法文  
 ハ自己又ハ他人ト規定セルヲ以テ其法益ノ享有者ハ親族ナルト否トヲ問ハ  
 ズ。危難防衛ヲ行フコトヲ得而シテ法文ハ法益ノ種類ヲ生命、身體、自由若クハ  
 財産ト列擧セルヲ以テ其以外ノ法益假令ハ名譽ニ對シ危難ヲ生ズルモ防衛  
 行爲ヲ行フコトヲ得ズ

三、危難ノ原因ハ人ノ行爲ナルト否ト又其行爲ノ適法ナルト否トヲ問フヲ要セ  
 ズ。是レ正當防衛ト異ナル重要ノ點ナリ。正當防衛ハ不正ノ侵害行爲ニ對スル  
 反撃ナリ故ニ無機物又ハ人以外ノ生物ヨリ危難ヲ生ジタル場合ニ之ヲ反撃  
 スルハ危難防衛ニシテ正當防衛ニアラズ。危難ノ發生ガ他人ノ違法行爲ニ原  
 因スル場合ニ之ヲ避クル爲メ違法行爲者以外ノ第三者ノ法益ヲ侵害スルハ  
 亦正當防衛ニアラズシテ危難防衛ナリトス

四、危難防衛ハ危難ヲ避クル爲メ己ムヲ得ザルニ出タルコトヲ要ス。正當防衛  
 ニ付テハ己ムヲ得ザルトハ防衛行爲ヲナスコト夫レ自身ガ己ムヲ得ザルト  
 ノ意カ或ハ防衛行爲ノ程度ガ必要ニシテ己ムヲ得ザルトノ意ナルカニ付キ

學者間ニ異論アルコトハ前ニ説明シタル如クナルモ危難防衛ノ場合ニ於テ  
 ハ防衛行爲ヲ爲スコト自身己ムヲ得ザルコトノ意味ナルハ學者間ニ異論ナ  
 シ。從テ第三者ノ法益ヲ侵害セザルモ逃走シテ危難ヲ免レ得ル場合ニハ危難  
 防衛ヲ行フコトヲ得ズ

五、危難ガ他人ノ違法行爲ニ原因スルトキハ危難防衛ハ違法行爲者以外ノ者ニ  
 對シ行ハル、コトヲ要ス。違法行爲者ニ對スル侵害ハ正當防衛トナルモ危  
 難防衛タルコトヲ得ズ。蓋シ正當防衛ハ不正ノ利益ト正當ノ利益トノ衝突ニ  
 シテ危難防衛ハ正當ナル二個ノ利益ノ衝突ナルヲ以テナリ。從テ正當防衛ニ  
 對シ正當防衛ハ成立セザルモ危難防衛ニ對シ危難防衛ヲ爲スコトヲ妨ゲズ  
 六、危難防衛ニ因リ侵害セラルベキ法益ニ制限ナシ。法律ハ危難ヲ避クル爲メ  
 全フセラルベキ法益ニ付キ其種類ヲ限定スルモ危難防衛ニ因リ侵害セラル  
 ベキ法益ニ付キ何等ノ制限ヲ爲サルヲ以テ危難ヲ避クルニ必要ナル以上  
 ハ如何ナル法益ト雖モ侵害スルニ妨ゲナシ

七、危難防衛ニ因リ侵害セラルベキ法益ハ危難防衛ニ因リ全フセラルベキ法益  
 ノ程度ヲ超エザルコトヲ要ス。正當防衛ハ不正ナル利益ヲ侵害スルコトニ

因テ正當ナル利益ヲ全フスルニアルヲ以テ苟クモ正當ナル利益ヲ全フスルニ必要ナル以上ハ不正ナル利益ハ正當ナル利益ニ比シ如何ニ大ナルモ之ニ對シ正當防衛ヲ行フヲ妨グス然レドモ危難防衛ハ正當ナル二個ノ利益ノ衝突ナルヲ以テ國家ヨリ之ヲ觀察スレバ小ナル利益ヲ大ナル利益ノ犠牲ニ供スルヲ相當トス是レ危難防衛ニ此條件ヲ必要トシタル所以ナリ

八業務上特別ノ義務アル者ハ危難防衛ヲ行フコトヲ得ズ 蓋シ豫メ此ノ如キ危難ニ遭遇スベキコトヲ慮カリ自己ノ法益ニ對スル危難ニ耐ユベキ特別ノ職務ヲ有スル者ハ危難防衛ヲ行フ可ラザルハ當然ニシテ刑法ハ此ノ如キ者ニ對シ一般ノ法則ニ照ラシ處斷スベキ旨規定セリ假令ハ警察官兵士消防夫ガ其職務上ノ行爲ヲ爲ス場合ノ如シ

犯罪ハ有責違法ノ行爲ナリ故ニ客觀的ニ物界ノ事實タル行動ト結果トヲ因果關係又ハ因果關係類似ノ關係ヲ以テ連結シ且ツ違法ナリトスルモ之ニ對シ刑罰ナル法律上ノ効果ヲ附スルニハ尙ホ主觀的ニ行爲ト行爲者本人トヲ連結スベキ責任關係ノ存在スルコトヲ要ス而シテ責任關係ハ左ノ内容ヨリ成ル

一、行爲者ニ責任能力アルコト

二、行爲者ハ故意又ハ過失アルコト

刑法ハ責任能力ニ付テハ第三十九條乃至第四十一條ニ規定シ故意過失ニ付テハ第三十八條ニ規定セリ故ニ其說明ハ各條文ノ下ニ譲ル

犯罪ハ有責違法ノ行爲ナリ有責違法ノ行爲ヲ不法行爲ト云フ然レドモ總テノ不法行爲ハ犯罪ニ非ラズ不法行爲ニシテ犯罪タルハ刑罰ヲ制裁トシテ科セラルベキモノタルヲ要ス此ノ如ク刑罰ヲ制裁トシテ科セラレタル不法行爲ハ罰スベキ不法行爲即チ犯罪ナリ

行爲ニ刑罰ヲ科スルニハ法令ノ明文アルヲ要ス故ニ罰スベキ行爲ナルヤ否ヤハ一ニ法令ノ明文ニ依テ定マル

法令ハ時トシテ不法行爲ヲ罰スルニハ行爲ト獨立シタル或事實ノ到來ヲ必要トスルコトアリ此ノ如ク行爲ト獨立シタル事實ニシテ處罰ノ前提タルベキモノヲ處罰條件ト云フ處罰條件ハ行爲ノ内容ヲ爲スモノニアラズ從テ全然行爲ト分離シテ之ヲ論ズルコトヲ要ス假令ハ教唆行爲ニ對スル正犯ノ實行々爲ノ如シ即チ教唆行爲ハ正犯ニ犯意ヲ構成セシムルコトニ依リ完成スト雖モ教唆犯トシテ之ヲ罰スルニハ正犯ノ實行々爲アルコトヲ要ス而モ正犯ノ實行々爲ハ教唆者ノ行

爲ト獨立シタル別個ノ事實ナルコト明カナリ故ニ此場合ニ於ケル正犯ノ實行々爲ハ實ニ致唆犯ノ處罰條件ヲ爲スモノナリ

處罰條件ハ嚴ニ訴訟條件ト區別スルコトヲ要ス處罰條件ノ成否ハ犯罪其モノ、成否ヲ決スベキ前提條件タルモ訴訟條件ハ單ニ訴追ノ條件ヲ爲スニ止マリ其行爲ノ犯罪タルニハ何等ノ關係ナシ從テ又其効果ニ於テモ大ナル差異ヲ生ズ即チ處罰條件ノ到來前ニハ其行爲ハ犯罪トナラザルヲ以テ其行爲ニ加擔スルモ其犯トシテ處罰セラル、コトナク時効ノ進行モ亦開始スルコトナシ反之訴訟條件ノ到來ヲ缺クモ其行爲ニ加擔シタル者ハ之ヲ共犯トシテ處罰スルニ妨ゲナク時効モ亦行爲ノ時ヨリ進行ヲ開始ス、要之處罰條件ハ刑罰權ノ成否ニ關スル要件ナルヲ以テ實體法タル刑法ノ領域ニ屬シ訴訟條件ハ起訴ノ効力ニ關スルヲ以テ形式法ナル刑事訴訟法ノ領域ニ屬ス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セズ但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラズ罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラザル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ズ

法律ヲ知ラザルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ズ但情狀ニ因リ其刑ヲ

減輕ス

行爲ガ犯罪タルニハ單ニ結果ヲ因果關係又ハ因果關係類似ノ關係ヲ以テ客觀的ニ行動其者ニ連結スルヲ以テ足レリトセズ其行爲ヲ行爲者本人ニ連結スベキ主觀的關係即チ責任關係ノ存在ヲ必要トスルコトハ既ニ説明セリ而シテ本條ハ其責任關係ノ一條件タル故意及ビ過失ニ付キ規定ス

故意ハ行爲ノ客觀的方面ノ認識ナリ行爲ノ客觀的方面ノ認識ハ行動ノ觀念ト結果ノ豫見トヲ以テ成ル而シテ結果ノ豫見ハ結果ノ觀念ト結果ヲ行動ニ連結スベキ關係ノ觀念トヲ包含ス犯罪タルベキ行爲ノ故意ヲ學問上特ニ犯意ト云フ

犯意ハ犯罪事實ノ認識ナリ從テ犯意ハ左ノ内容ヲ有ス

- 一、 犯罪ノ構成要件又ハ刑罰加重ノ條件タル行動ノ觀念
  - 一定ノ犯罪ノ成立又ハ刑罰加重ノ原因トシテ一定ノ行動ヲ要件トスルトキハ其行動ノ觀念アルコトヲ要ス若シ其觀念ナキトキハ犯罪ノ成立又ハ刑罰加重ノ原因ニ付キ故意ヲ存セズ
- 二、 犯罪ノ構成要件又ハ刑罰加重ノ條件タル結果ノ豫見

結果ノ豫見ハ結果ノ觀念ト結果ヲ行動ニ連結スベキ關係ノ觀念トヲ以テ成  
ル結果ノ觀念ナルガ故ニ結果ノ發生ヲ認識スルヲ以テ足リ進ンデ結果ノ發  
生ヲ希望スルコトヲ要セズ學者或ハ犯意ノ成立ハ結果ノ發生ヲ希望スルコ  
トヲ要スト爲ス之ヲ意欲主義ト稱シ意欲主義ニ對スルモノ即チ結果ノ發生  
ヲ認識スルヲ以テ足レリトスルモノヲ觀念主義ト云フ

結果ノ認識ハ畢竟結果ノ發生ヲ肯定シタル吾人ノ判斷ナリ而シテ判斷ニハ  
時ニ強弱ノ度ヲ異ニス即チ必ズ此結果ヲ發生スベシト爲ス場合ト或ハ此結  
果ヲ發生スルコトアルベシト爲ス場合トアリ前ノ場合ヲ學者確定ノ犯意ト  
云フ後ノ場合ニ於テ若シ行爲者ガ豫見シタル結果ヲ發生スト假定スルモ尙  
此行動ヲ止メズト決意シタルトキ換言スレバ其行動ヨリ生ズベキ結果ヲ認  
諾シタルトキハ學者之ヲ稱シテ不確定犯意ト云フ然レドモ若シ行爲者ニシ  
テ其結果ヲ否認シタルトキ換言スレバ假リニ此結果ニシテ發生ストスレバ  
此行動ヲ爲サズト決意スベカリシトキハ其行動ヨリ生ズベキ結果ノ豫見ヲ  
缺クコト、ナリ犯意ノ成立ヲ阻却ス

三、犯罪ノ構成要件又ハ刑罰加重ノ條件タル行動以外ノ現在ノ事實ノ認識

行動以外ノ現在ノ事實ニシテ犯罪ノ客觀的條件ヲ爲ス事實ハ各本條ノ明文  
ヲ以テ定ム假令バ財物毀棄ノ罪ニ於ケル犯意ハ毀棄スル行動ノ觀念ト毀損  
ノ結果トヲ豫見スルノミヲ以テハ成立セズ尙其者ガ他人ノ所有物タルコト  
ヲ認識スルコトヲ要ス而シテ其行動以外ノ現在ノ事實ハ右ノ設例ニ依リテ  
モ明カナルガ如ク必ズシモ純然タル事實タルコトヲ要セズ法律上ノ効果ナ  
ルモ妨ゲナシ法律上ノ効果ノ存否即チ右ノ設例ニ於テ所有權ノ何人ニ屬ス  
ルヤモ亦一ノ事實ナリトス

犯意ハ以上説明スルガ如ク時ニ法律上ノ効果ノ存否ヲ認識スルコトヲ必要ト  
スルモ犯罪行爲ニ對スル法律上ノ効果ノ認識換言スレバ其行爲ニ對シ刑法ハ  
如何ナル刑罰ヲ科スルヤヲ認識スルノ必要ナシ蓋シ此ノ如キ法律上ノ効果ハ  
行爲ノ内容ヲ組成スルモノニ非ラズシテ其行爲ヨリ生ズル効果ニ過ギザルヲ  
以テナリ

犯意ハ犯罪行爲ノ客觀的方面ノ認識ナリ從テ其主觀的方面ニ屬スル責任關係  
ノ認識ヲ必要トセズ又行爲ニ關係ナキ事實ノ認識ヲ必要トセズ故ニ責任關係  
ノ要素タル自己ノ年齢ヲ知ラザルモ又ハ處罰條件ニ屬スル事實ノ存在ヲ知ラ



ザルモ犯意ノ成立ニ何等ノ妨ゲナシ  
 犯意ハ犯罪行為ノ客觀的方面ノ認識ヲ必要トスルモ其行為ノ具體的事實ノ凡  
 ナヲ認識スルヲ必要トセズ要ハ法律ガ抽象的ニ定メタル事實ニ符合スル範圍  
 ニ於テ具體的事實ヲ認識スレバ足ル例ヘバ殺人罪ノ場合ニ於テ目的物ガ人ナ  
 ルコトヲ知ルヲ要スルモ其人ノ甲ナルヤ乙ナルヤハ之ヲ知ルノ要ナシ  
 以上説明スルガ如ク犯意ハ犯罪事實ノ認識アレバ足り其犯意ヲ成立スルニ至  
 ラシメタル原由ハ全ク之ヲ問フノ必要ナキモノトス然レドモ吾人ガ或ル行為  
 ヲ爲スニ至ルニハ必ズ之ヲ促シタル一定ノ觀念ヲ存ス此觀念ヲ稱シテ犯罪ノ  
 動機ト云フ法律ガ特ニ一定ノ動機ヲ以テ犯罪成立ノ要件トナシタルトキハ犯  
 意ノ成立ニ之レガ存在ヲ要スルハ勿論ナリトス  
 犯意ハ錯誤ニ因リ其成立ヲ阻却セラル、コトアリ故ニ錯誤ノ如何ナルヤヲ研  
 究スルハ難テ犯意ノ觀念ヲ確ムルコトトナル  
 錯誤ハ觀念ト現象トノ齟齬ナリ現象ハ外界ノ事實ニシテ觀念ハ内界意識ニ映  
 出セラレタル現象ノ影ナリ外界ノ現象ハ吾人ノ五官ヲ通シテ誤リナク意識ニ  
 映出セラル、ヲ通常トス然レドモ時トシテ感官ノ銳鈍其他ノ故障ニ因リ現象

ト異ナリタル心象即チ觀念ヲ映出スルコト妙カラズ即チ存在セル事實ヲ認識  
 セズ又ハ存在セザル事實ヲ幻覺ス是則チ錯誤ナリ故ニ錯誤トハ換言スレバ現  
 象ト心象トノ不一致ヲ云フニ外ナラズ

法令ノ存否ハ亦一ノ事實ナリ故ニ錯誤ヲ分チテ事實ノ錯誤法令ノ錯誤トス  
 一、事實ノ錯誤

實現シタル事實ニ法令ガ犯罪事實ノ要素トシテ豫メ抽象的ニ指定シタルモ  
 ノト否ラザルモノトアリ法令ノ指定シタルモノヲ法定事實ト云ヒ否ラザル  
 モノヲ具體的事實ト云フ例ヘバ殺人罪ノ場合ニ於テ犯罪ノ目的物ガ人ナル  
 コトハ法定ノ事實ニシテ其人ノ年齢氏名等ハ具體的事實ナリ

(甲) 法定事實ノ錯誤

實現シタル事實ガ法定事實ニ該當スル場合ニ其事實ヲ認識セザルトキハ  
 犯意ヲ阻却ス而シテ其認識セザル事實ガ犯罪ノ構成要件ナルトキハ犯罪  
 ノ成立ヲ妨ゲ刑罰加重ノ條件ナルトキ刑罰加重ノ原因ヲ欲ク  
 實現シタル事實ガ法定事實ニ該當セザル場合ニ法定事實ニ該當スル事實  
 ヲ幻覺シタルトキ 此場合ニハ故意ヲ存スルモ客觀的ニ犯罪ノ成立ヲ欲

ク例ハバ獸ヲ人ト誤認シテ殺傷シタルガ如シ

(乙) 具體的事實ノ錯誤

前例殺人ノ場合ニ於テ甲ヲ乙ト信シテ殺シタルトキハ甲モ乙モ人ナルガ故ニ法定事實ニ錯誤ヲ存セズ具體的事實ノ錯誤ヲ存ス此場合ニ錯誤ガ犯意ヲ阻却スルヤ否ヤニ付キ學說分ル

(イ) 錯誤ハ全ク犯意ヲ阻却セズト爲ス説  
其根據ハ法律上ノ犯意ヲ存スルヤ否ヤハ法定事實ヲ認識シタルヤ否ヤニアリ他ノ具體的事實ニ付キ認識アルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシトナスニアリ

(ロ) 錯誤ガ要點ニ關スルトキハ犯意ヲ阻却シ要點ニ關セザルトキハ犯意ヲ阻却セズト爲ス説  
要點トハ犯人ガ事ヲ行フノ前提ト爲シタル事實ナリ假令バ或ル事實ガ存スルナラバ行ハズトシ又ハ或事實ガ存セザレバ行ハズトスルトキ其事實ノ存否ガ犯人ニ於テ事ヲ行フノ前提ト爲シタル事實ニシテ此ニ所謂要點ナリ

(ハ) 目的物ノ錯誤ハ犯意ヲ阻却セズ打撃ノ錯誤ハ犯意ヲ阻却スト爲ス説  
目的物ノ錯誤トハ現ニ觀念ノ向フ處ノ目的物ニ對シテ結果ヲ生ジタルモ其目的物ガ本人ノ豫期シタルモノニアラザリシ場合ヲ云フ假令バ乙ト信シテ射撃シ死ナル結果ヲ生ジタルモ其人ハ犯人ノ豫期シタル乙トアラズシテ甲ナリシ場合ノ如シ  
打撃ノ錯誤トハ現ニ觀念ノ向フ目的物ニ對シテ結果ヲ生セズシテ他ノ物ニ對シ同一ノ結果ヲ生ジタル場合ヲ云フ假令バ甲乙二人佇立セルトキ乙ヲ射撃シタルニ彈丸外レテ甲ニ命中シ甲ガ死シタル場合ノ如シ  
以上ノ三說中最後ノ說ヲ以テ通説トス

二、 法令ノ錯誤

法令ニ自己ノ行爲ニ對スル効果ヲ規定シタルモノト否ラザルモノトアリ前者ニ對スル錯誤ハ犯意ヲ阻却セズ後者ニ對スル錯誤ハ其法令ガ其行爲ノ内容ニ關スル事實ノ効果ヲ規定シタル者ニシテ其效果ノ存否ガ犯罪ノ成否ニ關スルトキハ犯意ヲ阻却ス假令バ窃取ノ行爲ヲ罰スベキ刑法ノ存否ニ關スル錯誤ハ犯意ノ成立ニ何等ノ影響ヲ與ヘザルモ窃取ノ目的物ノ所有權ニ關

スル民法ノ法則ヲ誤解シ實際他人ノ所有物ナルニ拘ラズ自己ノ物ト信シク  
ルトキハ犯意ヲ阻却スルガ如シ

本條第一項ニ所謂罪ヲ犯ス意ナキ行為トハ意思ナキ身體ノ動靜ヲ云フニ非ラ  
ズ犯意ナキ行為ヲ云フナリ蓋シ意思ナキ行動ハ行為ニアラズ從テ罪トナラザ  
ルハ當然ニシテ法律ノ規定ヲ要スベキ事項ニアラザレバナリ然レドモ犯意ナ  
キ行為ハ常ニ之ヲ罰セザルニアラズ法律ハ特ニ例外ヲ設ケテ之ヲ罰ス但シ本  
條第一項但書ノ規定アル所以ナリ而シテ此例外ノ場合ニ過失ヲ犯罪成立ノ要  
件トスルモノト單ニ客觀的事實ノ發生ヲ以テ足レリトシ犯意モ過失モ犯罪成  
立ノ要件トセザルモノトアリ本法ニ於ケル過失傷害罪ノ如キハ前者ニ屬シ各  
種税法違犯ノ如キハ後者ニ屬ス此ノ如ク犯意モ過失モ犯罪成立ノ要件ト爲サ  
ルモノヲ學者名ケテ形式犯ト云フ但法律ハ時ニ客觀的事實アレバ犯意アル  
モノト推定シ直ニ刑罰ヲ科スルコトアリ斯ル場合ハ法律上故意犯トシテ處罰  
セラル、モノナルヲ以テ本項ノ例外ニ屬スルモノト爲スヲ得ズ  
過失トハ認識スベキ事實ヲ認識セザルヲ謂フ故ニ犯意アレバ過失ナシ過失ハ  
犯意ナキ場合ニ於テ存在ス而シテ客觀的犯罪事實ニ付キ犯意ナキハ錯誤ニ基

ク故ニ過失ハ錯誤ヲ條件トシテ存在ス然レドモ總テノ錯誤ハ過失ニアラズ不  
注意ナル錯誤之ヲ過失ト云フ過失ハ錯誤ニ陥リタルコトガ注意ノ欠缺ニ至リ  
シコトヲ要件トス換言スレバ相當ノ注意ヲ爲シタランニハ其事實ヲ認識シ得  
タリシ状態ニアリタルコトヲ要ス從テ吾人が如何ニ注意スルモ到底其事實ヲ  
認識シ得ザル場合ハ之レ所謂偶然的ノ事實ニシテ過失ニアラザルナリ

過失ハ注意ノ欠缺ヲ以テ要件トス注意ニ欠缺アルヤ否ヤハ注意ノ程度如何ニ  
ヨリテ定マル而シテ注意ノ程度ハ各人ニ依リテ異ナル從テ行為者其者ヲ標準  
トスル場合ト普通人ヲ標準トスル場合ト注意ノ程度ニ差異ヲ生ズ茲ニ於テ其  
何レヲ標準トシテ過失ノ有無ヲ定ムベキカニ付キ學說分ル第一說ハ本人ノ注  
意ヲ標準トシ第二說ハ普通人ノ注意ヲ標準トシ第三說ハ注意ノ程度ヲ普通人  
ニ求メ尙ホ本人ニ於テ認識シ得ベカリシ能力ノ存在セシコトヲ以テ過失ノ要  
件ト爲ス蓋シ第三說ヲ以テ正當トス  
本條第二項ハ犯罪ノ加重條件タル事實ニ付キ犯意ナキ場合ニハ加重罪トシテ  
處罰シ得ザル者ヲ規定セリ之レ蓋シ第一項ノ解釋上當然生ズベキ事理ニ屬シ  
特ニ法條ヲ設クルノ必要ナキモノトス

本條第三項ニ所謂法律ヲ知ラザルトハ犯罪行為ノ効果ヲ定メタル刑罰的法則ノ不知ヲ意味シ前ニ説明シタル犯罪行為ノ内容タル事實トシテ指定セラレタル法律上ノ効果ヲ規定シタル法則ノ不知ヲ云フニアラズ蓋シ後者ノ不知ハ結局犯罪事實ノ不知ニシテ犯意ノ成立ヲ阻却スベキモノナレバナリ刑罰的法則ノ不知ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ與ヘザルヲ以テ原則トス然レドモ時ニ如此法則ノ不知ハ犯罪ノ情狀ニ影響スルコトアルヲ以テ本法ハ刑ノ減輕ヲ爲シ得ベキ旨規定シタリ假令バ無智ノ田舎者ガ都府ニ出テ其罰セラルベキ行為ナルコトヲ知ラズシテ脚ヲ現ハシ市街ヲ歩行スル場合ノ如シ

第三十九條 心神喪失者ノ行為ハ之ヲ罰セズ

心神耗弱者ノ行為ハ其刑ヲ減輕ス

本條以下第四十一條ニ至ル三條ニ於テ責任關係ノ一要件タル責任能力ニ付テ規定セリ

責任能力ハ犯罪能力ナリ凡ソ行為ガ法律上ノ効果ヲ發生スルニ必要ナル法律上ノ適格ヲ行為能力ト云フ故ニ責任能力トハ行為ガ犯罪タル法律上ノ効果ヲ發生スルニ必要ナル法律上ノ適格ナリ

責任能力ハ辨識力即チ意思能力ヲ以テ其實質トス而シテ意思能力トハ行為ニ對シテ生ズル法律上ノ効果ヲ識別スルニ足ルベキ智能ヲ意味シ實際之ヲ識別シタルコトヲ要セズ

法人ガ責任能力ヲ有スルヤ否ヤニ付テハ議論アリ法人ヲ以テ實在セザル法律上ノ擬制物トスル學說ニ從ヘバ法人ハ意思ヲ有セザルガ故ニ責任能力ナシ然レドモ法人實在說ニ依レバ法人ハ自然人ノ如ク法律上意思ヲ有ス從テ法人ニ適法行為ノ能力アルガ如ク苟クモ法人ガ法律ノ刑罰トシテ剝奪スル法益享有ノ能力ヲ有スル以上ハ犯罪ニ付テモ行為能力即チ責任能力ヲ有スト爲ス蓋シ後說ヲ以テ正當トス但現行法ニ於テハ法人ヲ處罰スベキ場合ハ特ニ明文ヲ掲グルヲ以テ否ラザル場合ニハ之ヲ處罰セザルモノト解スルヲ要ス  
責任能力ノ有無ハ行動ノ時ヲ標準トシテ決定スベキ問題ナリ從テ行動ヲ爲シタル後未ダ結果ノ發生セザル前責任能力ヲ喪失スルモ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及スモノニアラズ

責任能力ハ如何ナル場合ニ阻却スルヤヲ明ニスレバ同時ニ責任能力ノ存在スル場合ヲ確ムルコトヲ得故ニ刑法ハ責任能力ヲ阻却スベキ場合ヲ規定シ然ラ

ザル場合ニ於テハ當然責任能力アルモノトナセリ而シテ責任能力ヲ阻却スベキ原因ハ心神ノ不成熟及心神喪失ノ二トス本條第一項ハ先ヅ其後者ニ付テ即定セリ

本條第二項ハ心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スベキ旨ヲ規定セリ蓋シ心神耗弱者ハ心神ヲ喪失スルニ至ラズ從テ之ヲ責任無能力者トシテ其行爲ヲ無罪ト爲スコトヲ得ザルモ心神ノ健全ナル者ニ比較スルトキハ其情狀憐ムベキモノアルヲ以テ普通ノ刑ニ比シ減輕スルヲ相當トスレバナリ

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ又ハ其刑ヲ減輕ス

本條ハ心神不成熟ニ因ル責任無能力者ノ一トシテ瘖啞者ヲ規定セリ法文ニ所謂瘖啞者トハ聽能ト語能ト共ニ喪失セル者ヲ云フ而シテ瘖啞者ハ常ニ辨識力ヲ有セザル者ニアラズ殊ニ今日ノ如キ教育制度ノ發達シタル時代ニ於テハ瘖啞者ト雖モ相當ノ智識ヲ有スルモノ珍シカラズ然レドモ完全ナル五官ヲ有スル普通人ニ比シ其智力劣レルヲ通常トス故ニ法律ハ瘖啞者ノ行爲ト雖モ其辨識力ノ有無ヲ審案シ或ハ罰シ又ハ其刑ヲ減輕スベキ旨規定シタリ

第四十一條 十四歳ニ滿タザル者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ

本條ハ學者ノ所謂刑法上ノ成年時期ヲ規定シタルモノナリ故ニ十四歳未滿ノ者ノ行爲ニ付テハ實際辨識力ヲ有スルヤ否ヤヲ問フノ要ナク常ニ責任無能力者トシテ無罪タルベキモノトス

第四十二條 罪ヲ犯シ未ダ官ニ發覺セザル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論スベキ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ自首ニ因リ刑ヲ減輕スルハ客觀的ニハ犯罪捜査ニ依ル無用ノ手數ヲ省キ主觀的ニハ犯人ニ悔悟ノ狀アリト認メ得ベキニ依ル從テ自首ニハ未ダ官ニ發覺セザル前ニ爲スコトヲ要ス官ニ發覺シタル後ニハ自首ナルモノ存在スルコトヲ得ズ法文ニ所謂官トハ犯罪捜査ノ權限ヲ有スル官吏ヲ意味ス故ニ之レ等ノ權限ヲ有セザル郡書記又ハ縣屬ノ如キ者ガ犯罪ヲ發覺スルモ自首ヲ爲スノ妨ゲトナラザルト同時ニ之レ等ノ者ニ對シ罪ヲ犯シタルコトヲ告白スルモ自首トナラズ

法文ニ所謂發覺セザルトハ犯人ノ何人ナルヤ明カナラザルヲ意味ス故ニ犯罪事實ニシテ明カナルモ犯人ノ何人ナルヤ不明ナル間ハ未ダ發覺シタリト云フヲ得

自首ハ犯人自ら進ンデ犯罪事實ヲ申告スルコトヲ要ス從テ檢事又ハ司法警察官ノ推問ヲ受ケテ犯罪事實ヲ申告スルハ自白ニシテ自首ニアラズ但シ此ニ所謂犯人自ら進ンデトハ當該官吏ノ推問ヲ受ケザルコトヲ意味スルニ止マルヲ以テ親族又ハ朋友ノ勸告ニ由リ犯罪事實ヲ申告スルモ自首タルニ妨ゲナシ

本條第二項ニ所謂首服トハ親告罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ對スル自首ナリ唯自首ト云ヒ首服ト稱スルハ之ヲ受クル者ノ官吏タルト個人タルトニ依リ其名稱ヲ異ニスルノミ從テ自首ニ付テノ説明ハ凡テ首服ノ場合ニ適用セララルベキモノトス

### 第八章 未遂罪

犯罪ハ種々ノ體様ニ於テ發現ス即チ行爲ノ全部實現スルコトアリ一部ニ止マルコトアリ或ハ一人ニ依テ犯サル、コトアリ數人ノ共同ニ出ヅルコトアリ或ハ犯サレタル犯罪ガ一個ニ止マルコトアリ數個成立スルコトアリ此ノ如ク種々ナル犯罪發現ノ體様ヲ學者犯罪ノ狀態ト云フ本章ハ其ノ一タル未遂罪ニ付キ規定シ

タリ

未遂ハ既遂ニ對スル犯罪狀態ニシテ犯罪行爲ガ全部實現セザル場合ニ存ス故ニ未遂ノ觀念ヲ明カニスルニハ先ヅ既遂ノ内容ヲ研究スルノ要アリ

既遂ハ犯罪行爲ノ凡テノ條件ガ完全ニ實現セラレタル時ニ於テ存在ス從テ罪ノ既遂タルニハ(一)行動ノ終了シタルコト(二)行動ニ隨伴スル他ノ犯罪事實ノ存在スルコト(三)結果ノ發生シタルコトヲ要ス故ニ以上何レカノ一ヲ缺クトキハ理論上常ニ罪ノ未遂ヲ存ス

罪ノ既遂未遂ハ犯罪行爲ノ階段ニ關スル問題ナリ從テ行爲ノ内容ヲ爲サハル處罰條件ノ成否ハ此問題ト何等ノ關係ヲ有セズ

第四十三條 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ゲザル者ハ其刑ヲ減輕ス但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

未遂ハ凡テノ犯罪ニ對シ存在シ得ルハ理論ナリ改正刑法ハ過失犯ニ付キ未遂罪ヲ認メズ故意犯ニ付テノミ之ヲ認メ本條ニ於テ之ヲ規定セリ

未遂罪トハ犯罪ノ實行ニ着手シ未ダ遂ゲザルモノヲ云フ未遂罪ヲ罰スル立法上ノ理由ハ主觀的ニ行爲者本人ガ反社會的性質ヲ有スル危險人ト認メ得ラル

ト客観的ニ其行為ガ既遂ニ至ルベキ危険アルトニ因ル  
今本條ニ定メタル未遂罪ノ意義ニ從ヒ其條件ヲ擧グレバ左ノ如シ

第一、故意犯ナルコトヲ要ス

第二、犯人ノ有スル犯意ノ全部ガ事實トシテ發現セラレザリシコトヲ要ス

犯罪事實ノ一部分ガ實現セザル場合ハ(一)行動ノ終了セザル場合(二)行動ニ隨伴  
スル他ノ犯罪事實ガ存在セザル場合(三)結果ノ發生セザル場合ノ三ニ區別ス  
ルコトヲ得ベシ學者行動ノ終了セザルモノヲ着手未遂ト云ヒ行動終リタル  
モ行動ニ伴フ他ノ犯罪事實存セザルカ或ハ結果ノ生ゼザルモノヲ缺効未遂  
ト云フ而シテ本法ハ其犯罪ノ既遂ニ至ラザルコトガ犯人ノ意思ニ出デザル  
コトヲ必要トセザルヲ以テ犯人ニ於テ着手後任意ニ中止シ既遂ニ至ラシメ  
ザルモ尙ホ未遂犯トシテ處罰スルニ妨グナシ換言スレバ中止犯ハ未遂犯ノ  
一体様タルニ過ギズ舊法ノ下ニ於テハ犯人ガ任意ニ既遂ニ至ラシメザル未  
遂ヲ中止犯トシ之ヲ處罰スルノ法條ヲ缺ケリ然レドモ本法ノ下ニ於テモ犯  
人ノ意思ニ基キ既遂ニ至ラシメザル場合ハ他ノ未遂罪ニ比シ其情狀ヲ異ニ  
スルコトアルト一方ニ於テ刑事政策上既遂ニ至ラシメズシテ中止セシムル

ヲ利トスルニ由リ其刑ヲ減輕又ハ免除スベキ旨規定セリ而シテ法文但書ニ  
所謂自己ノ意思ニ因リトハ前ニ説明ヲ與ヘタル任意ノ意味ニシテ換言スレ  
バ犯人ニ於テ犯罪ヲ既遂ニ至ラシメント欲セバ至ラシメ得ルモ之ヲ欲セザ  
ルガ故ニ爲サズトノ觀念ニ基キ其行動ヲ止ムルノ意ナリ從テ既遂ニ至ラン  
メントスルモ能ハズトノ觀念ニ基キ行動ヲ止メタルトキハ自己ノ意思ニ因  
リ之ヲ止メタルモノト云ヒ得ザルニ由リ中止犯タルコトヲ得ズ而シテ犯人  
ノ欲セザルコトガ犯罪ノ發覺ヲ恐レ他日好機ヲ俟テ再ビ犯罪ヲ實行セヨト  
スルニアルト或ハ全然悔悟シテ犯罪ヲ爲サズトノ意ニ基クハ中止犯タル  
ニ何等ノ影響ナシ之ヲ約言スレバ犯人ガ犯罪行為ヲ中止シタル動機ノ如何  
ハ中止犯タルニ何等ノ關係ヲ有セザルナリ

第三、實行ニ着手シタルコトヲ要ス

犯罪ノ發意ヨリ既遂ニ至ル迄行為ノ進行ヲ觀察スルトキハ數多ノ階級存在  
ス假令バ殺人犯ノ場合ニ於テ人ヲ殺サント決意シ之ヲ殺サンガ爲メニ必要  
ナル刀劍ヲ準備シ次テ殺スベキ機會ヲ偵知シ其機至リテ劍ヲ拔キ之ヲ振り  
上ゲ斬リ下シトニ始メテ殺人既遂罪ヲ成立セシムルガ如ク其行為ノ段階ハ

之ヲ幾多ニ區分スルコトヲ得ベシ然レドモ之レ等ノ行爲ノ階段ヲ學問上ヨリ觀察スルトキハ實行ト豫備トノ二ニ區別スルコトヲ得實行トハ法律ガ犯罪構成ノ要件トシタル各個ノ行動ニシテ豫備ハ實行ニ至ル準備行爲ナリ即チ前設例ニ於テ刀劍ヲ用意シ又ハ殺人ノ機會ヲ偵知スルガ如キハ殺人罪ノ豫備ニシテ目的物タル人ニ斬リ付クルヲ殺人罪ノ實行ナリトス而シテ實行及ビ實行ニ近接セル豫備ノ動作ニシテ犯罪ヲ既遂ニ至ラシムベキ具體的危險ヲ生ズルモノヲ學者名ケテ着手行爲ト云フ具體的危險ノ有無ハ四邊ノ狀況ヨリ觀念シテ決定スベク一概ニ抽象的論斷ヲ下スコトヲ得ズ假令ハ前例ニ於テ目的物タル人ニ對シ劍ヲ拔ク動作ノ如シ法文ニ實行ニ着手ストハ着手行爲ニ入りタルコトヲ云フナリ蓋シ着手行爲ノ意義ニ付テハ學者間ニ種々ノ議論アリト雖モ未遂犯ヲ罰スル理由ヲ主觀的及ビ客觀的ノ危險ニ存ストスル以上ハ其行爲ノ危險ヲ具體的ニ識別シ得ル程度ニ至リタル動作ヲ以テ着手行爲ト爲スヲ正當トス

本人ノ爲シタル行動ガ其行動ノ始メヨリ結果ヲ發生スルニ適セザル爲メ未遂ニ終リタルモノヲ學者稱シテ不能犯ト云フ不能犯ハ之ヲ未遂罪トシテ罰スベ

キヤ否ヤニ付キ學者間ニ議論アリト雖モ苟クモ其行動ニシテ結果ヲ惹起スベキ具體的ノ危險アル以上ハ前ニ掲グル未遂罪ノ要件ニ適合スルヲ以テ之ヲ未遂罪トシテ處罰スルヲ正當トス而シテ其ノ行動ガ結果ヲ惹起スベキ具體的危險アルヤ否ヤハ其行動ノ時ニ於テ一般ニ認識シ得ベキ事情又ハ犯人自身ノ認識シタル事情ニ基キ判斷スベク後ニ發見セラレタル事實ヲ以テ決定スベキモノニアラズ蓋シ行動ノ前ニ發見セラレタルト否トヲ問ハズ且一般ニ認識シ得ラレザリシモノナルト否トヲ論ゼズ總テノ事實ヲ總合シテ觀察スベキモノトスルトキハ不能犯ハ始メヨリ行動ト結果トノ連絡ヲ缺如スルモノナルヲ以テ常ニ結果ヲ惹起スルノ危險ナク從テ不能犯ハ凡テ未遂罪トナリ得ズトノ論結ヲ到達スベケレバナリ

學者或ハ不能犯ヲ目的物ニ關スル絶對的不能相對的不能手段ニ關スル絶對的不能相對不能トシ絶對的不能トハ目的物又ハ本人ノ採リタル手段ガ其性質上如何ナル場合ニ於テモ結果ヲ惹起スルニ適セザル場合ヲ云ヒ相對的不能トハ目的犯又ハ手段性質上結果ヲ惹起スル能力ナキニ非ザルモ偶々存在シタル特別ノ事情ノ爲メ之ヲ惹起スルニ適セザリシ場合ヲ云フ假令ハ暗夜ニ石地藏ヲ



人ト誤認シテ斬ルガ如キハ目的物ニ關スル絶對不能ニシテ毒藥ヲ與ヘシモ其人ガ偶々解毒藥ヲ豫メ服用シ居リタル爲メ其効ヲ奏セザリシガ如キハ目的物ニ關スル相對的不能ナリ又砂糖ヲ以テ人ヲ殺害シ得ト信ジ之ヲ他人ニ服用セシムルガ如キハ手段ニ關スル絶對的不能ニシテ毒藥ヲ服用セシメタルモ分毫少カリシ爲メ功ヲ奏セザリシ場合ノ如キハ手段ニ關スル相對的不能ナリトス而シテ或ハ絶對的不能ノ場合ハ目的物ニ關スルト手段ニ關スルトヲ問ハズ之ヲ罰セズ相對的不能ノ場合ハ總テ之ヲ罰スベシトナシ或ハ手段ニ關スル不能ノ場合ハ之ヲ罰シ目的物ニ關スル不能ノ場合ハ之ヲ罰セズトシ或ハ手段ニ關スル相對的不能ノ場合ノミ之ヲ罰スベキモノトナス然レドモ現ハレタル行爲ヲ具體的ニ觀察スルトキハ不能犯ハ常ニ絶對的ニ行動ト結果トノ間ニ因果ノ關係ヲ缺如スルモノニシテ或ハ因果ノ關係ヲ存シ或ハ存セズトノ相對的觀念ヲ此間ニ容ル、コトヲ許サズ換言スレバ不能ナル否定的ノ觀念ハ常ニ絶對ニシテ相對的不能ナル語ハ思想ニ於テ矛盾スルモノナリ從テ之レ等ノ學說ハ何レモ其根據ナキモノトス

或ハ又未遂ハ客觀的方面ヲ缺如セル犯意ノ實行ナリトノ理由ニ基キ總テノ不

能犯ハ未遂犯ナリト主張スルモ此ノ如キハ未遂犯ヲ罰スル立法ノ精神ヲ無視スルモノニシテ之ヲ採用スルコトヲ得ズ

或ハ又未遂ハ未ダ犯罪ヲ遂グズトノ觀念ニ基クモノナルヲ以テ其行動ハ性質上犯罪ヲ遂グ得ベキモノナルヲ要ス從テ始メヨリ結果ヲ惹起スルニ適セザル行動ハ實行ノ着手ト云ヒ得ザルニ因リ總テノ不能犯ハ未遂犯ニアラズト主張スルモ此ノ如キハ社會ノ常態ヲ離レテ觀察シタル議論ニシテ採用スルニ由ナシ

要之ニ不能犯ニ付テハ本法ニ何等ノ明文ヲ存セザルヲ以テ學理ニ依リ之ヲ決セザル可ラズ而シテ前ニ説明シタルガ如ク具體的危險ノ有無ニ由リ罰スベキ不能犯ト罰ス可ラザル不能犯トニ區別スルハ未遂犯ヲ罰スル立法ノ精神ニ適合シ最モ其當ヲ得タルモノト云ハザル可ラズ

第四十四條 未遂犯ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

舊刑法ニ於テハ罪ヲ重罪輕罪違警罪ニ分チ重罪ノ未遂ハ常ニ之ヲ罰シ輕罪ノ未遂ニ付テハ各本條ニ規定シ違警罪ノ未遂ハ既ニ之ヲ罰セザル旨規定シタルモ本法ハ之等ノ罪ノ區別ヲ廢シタルヲ以テ未遂罪ヲ罰スベキ場合ハ一々各本

條ニ於テ之ヲ規定スベキ旨定メタリ

九〇

## 第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經ザル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止ダ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス本條ハ併合罪ノ定義ヲ規定ス即チ併合罪トハ確定判決ヲ經ザル數個ノ犯罪又ハ確定判決ヲ經タル犯罪ト其前ニ犯シ未ダ確定判決ヲ經ザル罪トガ併存スルヲ謂フナリ故ニ併合罪ノ存スルニハ常ニ二個以上ノ犯罪ノ併存スルヲ要ス

罪ノ一個ナルヤ數個ナルヤノ問題ハ罪ノ單位ニ關スル問題ニシテ即チ罪ヲ量定スベキ準尺ヲ何レニ求ムベキニアリ之レ由來刑法學上ノ難問題ニシテ學說紛糾歸一スル處ナシト雖モ今一々之レガ論評ヲ爲スノ邊ナシ故ニ余ハ比較的  
正當ト信ズル學說ニ從ヒ直ニ之ガ説明ヲ爲サント欲ス

犯罪ハ行爲ナリ故ニ犯罪ノ數ハ行爲ノ數ニ因リテ之ヲ定ム即チ一個ノ行爲ハ常ニ一個ノ犯罪ヲ成立セシメ一個ノ行爲ニ因リ數個ノ犯罪ヲ成立セシムルコトナク又數個ノ行爲ハ數罪ヲ成立セシメ合シテ一罪ヲ成立セシムルコトナキ

ヲ原則トス然レドモ法律ハ時ニ例外ノ規定ヲ設ケ數個ノ行爲ヲ合シテ一罪トナスコトアリ此點ニ付テハ後ニ之ヲ説明ス但シ一個ノ行爲ガ常ニ一罪タル原則ハ絕對ニシテ例外ナシ

犯罪ハ行爲ナリ行爲ハ行動ト結果トヨリ成立ス從テ(一)行動モ結果モ單一ナル場合(二)行動單一ニシテ結果數個ナル場合(三)行動數個ニシテ結果單一ナル場合ハ常ニ一個ノ行爲ヲ成立セシム反之行動モ結果モ數個ナルトキハ常ニ數個ノ行爲ヲ爲ス

犯罪ノ數ハ行爲ノ數ヲ以テ標準トシ行爲ノ數ハ行動及ビ結果ノ數ニ依リテ定マル故ニ犯罪ノ數ヲ明カニセント欲セハ進ンデ行動及ビ結果ノ數ニ付キ研究スルヲ要ス然レドモ現代法學上ノ智識ハ未ダ吾人ニ之レガ概括的標準ヲ與フルノ域ニ達セズ或ル格段ナル場合ニ於テ標準ヲ示スニ過ギズ從テ其他ノ場合ニ於テハ吾人ハ社會ノ常識ニ訴ヘ之ヲ判定スルノ外ナシトス而シテ學者ノ格段ナル場合ニ於テ與フル標準ハ左ノ場合ニ於テ其結果ノ數ヲ定ムルニアリ一、侵害セラルベキ法益ガ享有者ノ處分シ得ザルモノ(生命、身體、名譽、貞操等)ナルトキハ被害者ノ數ニ依リ結果ノ數ヲ定ム

二侵害セラルベキ法益ガ享有者ノ處分シ得ベキモノナルトキハ其物が同一人ノ保有内ニ在ル場合ニ限リ所有者被害者ヲ異ニスルトキト雖モ單一ノ結果ヲ成立セシム假令バ數個ノ行動ニ因リ同一人ノ保有内ニ在ル所有者ヲ異ニスル財物ヲ窃取スルトキハ被害者タル所有者數人アルモ結果單一ナルヲ以テ一個ノ盜罪ヲ成立スルニ止マルガ如シ

學者ノ所謂繼續犯モ結果單一ナルヲ以テ一個ノ行為ヲ成立シ從テ一罪トシテ處罰セラルベキモノトス即チ繼續犯トハ一旦惹起セラレタル外界ノ變狀(結果)ガ間斷ナク時間的ニ繼續スル者ニシテ假令バ人ヲ不法ニ監禁シテ放任スルガ如シ然レドモ繼續犯ハ學者ノ所謂遺跡犯ト區別スルコトヲ要ス蓋シ繼續犯ハ結果ノ繼續スルコトヲ必要トシ且ツ其繼續ノ狀況ハ犯人ノ維持ニ依テ行ハル、モノナルモ遺跡犯ハ其結果ノ繼續、犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナク且ツ犯人ノ維持ヲ必要トスルモノニアラズ假令バ傷害罪ニ於テ傷害ナル結果ノ繼續ハ傷害罪ト何等ノ關係ナク且ツ犯人ガ之ヲ維持スルト云フハ全ク無意味ナルガ如シ

數個ノ行為ハ數個ノ犯罪ヲ構成スルヲ原則トス但シ左ノ場合ニ於テハ數個ノ

行為ガ法律ニ由リ結合セラレテ一罪トナル

一、連續犯 第五十五條ノ說明ニ讓ル

二、結合犯 相獨立シテ別種ノ犯罪タルベキ數個ノ行為ヲ法律ガ結合シテ一罪トナストキ假令バ第二百四十條ノ強盜傷人ノ罪又ハ第二百四十一條ノ強盜強姦ノ罪ノ如シ

三、聚合犯 即チ營業犯、常業犯、常習犯ノ三ヲ云フ營業犯ハ所得ノ原因トスル目的ヲ以テ同一種類ノ行為ヲ反覆實行スルノ決意ヲ以テ其特質トス但シ實際ニ其行為ヲ反覆スルコトヲ要セズ一度其行為アレバ營業犯ノ既遂罪トシテ處罰スルニ妨ゲナシ本法ノ下ニハ此種ノ犯罪ナシ常業犯ハ同一種類ノ行為ヲ反覆實行スル決意アレバ足り營業犯ノ如ク所得ノ原因トスル目的アルヲ要セズ舊法ノ下ニハ常業犯トシテ私ニ營業ヲ爲ス者ハ罰スル規定アリシモ本法ハ特別法ノ規定ニ讓リ他ニ此種ノ規定ナシ常習犯ハ常業犯ノ如ク同一種類ノ行為ヲ反覆セシムル傾向ヲ生ズルコトヲ特質トスル犯罪ナリ故ニ常習犯ハ實際ニ行為ノ反覆アルコトヲ要ス本法ハ其第八十六條ニ於テ賭博

ヲ常習トスル者ヲ處罰セリ  
之レ等ノ犯罪ハ何レモ實際ニ於テ數個ノ行爲アリタルトキニノミ聚合犯ト  
シテ存在ス

四一ノ犯罪行爲ガ他ノ犯罪行爲ノ手段又ハ結果ナルトキ第五十四條ノ下ニ於  
テ説明ス

併合罪ノ處分ニ付キテハ三個ノ主義アリ即チ吸收主義加重主義併科主義之レ  
ナリ吸收主義ハ舊法ノ下ニ於テ重罪輕罪ニ付キ行ハレタル主義ニシテ數個ノ  
犯罪中最モ重キ刑ヲ以テ數罪ノ刑トシ他ノ輕キ刑ヲ科セザルニ在リ加重主義  
ハ各罪ニ對スル本來ノ刑ヲ加重シテ數罪ノ刑トシ併科主義ハ各罪ニ對スル凡  
テノ刑ヲ併合シテ數罪ノ刑トスルニ在リ本法ハ原則トシテ併科主義ヲ採リ刑  
罰ノ性質上併科シ得ザル場合又ハ刑罰重キニ過グル場合ニ例外トシテ吸收主  
義又ハ加重主義ヲ採レリ其詳細ハ各本條ノ説明ニ讓ル

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ  
沒收ハ此限ニ在ラズ

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セズ但シ罰金

科料及ビ沒收ハ此限ニ在ラズ

本條ハ刑罰ノ性質上併科シ得ザルモノニ付キ規定セリ罰金科料又ハ沒收ハ無  
期自由刑又ハ死刑ト併科シ得ルヲ以テ其原則ニ復歸シタルナリ

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ  
其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期ト  
ス但各罪ニ付キ定リタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ズ  
本條ハ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スベキ罪ニ付テハ數罪ニ對スル刑ヲ併科スル  
ヲ以テ重キニ失スル場合アルヲ豫想シ之レニ制限ヲ加ヘタリ從テ重キ罪ニ付  
キ定メタル刑ノ長期ノ半數ヲ加フルコト分却テ數罪ノ刑ヲ併合シタルモノニ  
超ユルトキハ制限ヲ加ヘタル趣旨ニ反スルヲ以テ本條但書ノ規定ヲ設ケタル  
ナリ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ  
在ラズ

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加ス

ルコトヲ得

二個以上ノ没収ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未ダ裁判ヲ經ザル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經ザル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但シ死刑ヲ執行ス可キトキハ没収ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セズ無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行スベキトキハ罰金科料及ビ没収ノ外他ノ刑ヲ執行セズ有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ズ

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケザル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

二箇以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス  
以上各條ニ付テハ條文ヲ一讀スルニ依リ其意義明瞭ナルニ由リ之レガ説明ヲ

省ク

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸シ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

本條ハ二個ノ場合ヲ規定セリ即チ第一一個ノ行爲ガ數個ノ罪名ニ觸ル、トキ第二犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ガ他ノ罪名ニ觸ル、トキ之レナリ

第一、一個ノ行爲ガ數個ノ罪名ニ觸ル、トキ

一個ノ行爲ガ數個ノ法條ニ觸ル、場合ニ二アリ一ハ一個ノ行爲ヨリ生ジタル一個ノ結果ガ數個ノ法條ニ觸ル、場合ニシテ一ハ一個ノ行爲ヨリ生ジタル數個ノ結果ガ同一法條若クハ異ナル數個ノ法條ニ觸ル、場合ナリ前者ヲ學者法條ノ競合ト云ヒ後者ヲ想像上ノ數罪ト云フ法文ニ所謂一個ノ行爲ガ數個ノ罪名ニ觸ル、トハ後者ヲ意味シ前者ヲ包含セズ蓋シ一個ノ結果ガ數個ノ法條ニ觸ル、ハ結局普通法ト特別法若クハ補充法ト充實法ニ觸ル、場合ニ過ギズ而シテ特別法ハ普通法ヲ排シ充實法ハ補充法ヲ吸收スルハ法律解釋ノ原則ナリ故ニ嚴正ニ之ヲ云ハ、此ノ如キ場合ハ一個ノ特別法又ハ充

實法ニ觸ル、ニ過ギズシテ數個ノ法條ニ觸ル、者ト云フヲ得ズ從テ其一罪タルハ論ヲ俟タズ假令ハ富籤發賣ノ取次ヲ爲ス罪ハ元來本法第六十三條ヲ適用シ第八十七條第一項ノ從犯トシテ處罰スベキモノナルモ第八十七條第二項ノ特別規定アルヲ以テ從犯ニ關スル普通法タル第六十三條ヲ排斥シ第八十七條第二項ヲ適用スルガ如ク又未遂ヲ罰スル補充法ハ既遂ヲ罰スル充實法ニ吸收セラル、ガ如シ

想像上ノ數罪ノ場合ニニアリーハ同種類ノ數罪ニシテ假令ハ一發ノ彈丸ニテ數人ヲ仆シタルガ如ク一ハ異種類ノ數罪ニシテ假令ハ一發ノ彈丸一人ヲ仆シ餘勢尙ホ窓硝子ヲ破壊シタルガ如シ而シテ此ノ如キ場合ヲ一罪トナスベキカ將タ數罪トナスベキカハ大ニ議論ノ存在スル處ナルモ前ニ余ノ説明シタルガ如ク行爲說ヲ探ルトキハ假令結果ニシテ數個發生スルモ行動ニシテ單一ナル以上ハ一個ノ行爲ニ過ギザルヲ以テ一罪トシテ處罰スベキヤ當然ナリ

行爲說ニ對スルモノハ法益說ニシテ犯サレタル法益ノ數ニ由リ犯罪ノ數ヲ定ム從テ此ノ如キ場合ヲ常ニ數罪トス

第二犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ガ他ノ罪名ニ觸ル、トキ

犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ガ他ノ罪名ニ觸ル、トキハ獨立シテ犯罪ヲ構成シ他罪ニ吸收セラル、モノアラザルハ行爲ノ數ニ依リ犯罪ノ數ヲ定ムル原則ニ照ラシ明カナリ從テ法ノ明文アルカ若クハ法文ニ於テ暗黙ニ他罪ニ吸收セシムルコトヲ認メタルモノト解シ得ザル以上ハ常ニ數罪トシテ處斷スベキモノトス

以上ノ説明ニ依リ單ニ理論ニ從ヒ本條ヲ解釋スルトキハ本條第一項前段ノ場合ハ一罪ニシテ斯カル場合ハ最モ重キ刑ニ從ヒ處罰スルヲ當然トスルヲ以テ注意的規定ト解スベク本條第一項後段ノ場合ハ數罪ナルニ依リ一般併合罪ノ規定ニ從ヒ處罰スベキモノナルモ本條ハ特ニ之レガ例外規定ヲ設ケタルモノト解セザル可ラズ然レドモ右二個ノ場合ヲ同一法條ノ下ニ規定シタル點ハ本條第一項後段ノ場合ニ付キ一般併合罪ノ場合ニ於ケルガ如ク二ヶ以上ノ確定裁判ヲ生ジタル際ニ關スル第五十一條ニ該當スル規定ヲ設ケザル點トヲ總合シテ觀察スルトキハ本法ハ此ノ如キ場合ヲ凡テ一罪トナシタルモノト解スルヲ正當トス從テ本條第一項後段ノ場合ハ前ニ説明シタル結合罪ノ一種トシテ

論ズベキモノトス  
本條第二項ハ特ニ説明ヲ與フルノ要ナシ  
第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、トキハ一罪トシ  
テ之ヲ處斷ス  
本條ハ連續犯ノ意義ヲ説明スルト同時ニ之ヲ一罪トシテ處分スベキ旨ヲ規定  
セリ

本條ノ與ヘタル連續犯ノ意義ニ依レバ(一)連續犯ハ數個ノ行爲ヨリ成立スルコ  
ト(二)數個ノ行爲ハ何レモ同一罪名ニ觸ル、コト(三)數個ノ行爲ニ連續ノ關係ヲ  
存スルコトヲ要ス

(一)連續犯ハ數個ノ行爲ヨリ成立ス  
行爲タレバ足ル其故意犯ナルト過失犯ナルトヲ問ハズ學者或ハ連續犯ノ一  
要件トシテ數個ノ行爲ニ對スル犯意ガ單一ナルヲ要スト説明スルモ何故ニ  
過失犯ニ連續犯ヲ認メ得ザルカ其理由明カナラズ行爲ガ數個存在スルコト  
ヲ要ス學者或ハ連續犯ノ結果ガ單一ナルコトヲ要スト主張スルモ結果單一  
ナレバ行爲ハ一個トナリ從テ特ニ連續犯ナル者ノ存在ヲ認ムルノ要ナキニ

至ルベク從テ其說ノ誤レルコト亦自ラ明カナリ

(二)數個ノ行爲ガ何レモ同一罪名ニ觸ル、コトヲ要ス

同一罪名ニ觸ル、トハ同一ノ法益ニ對スル攻撃ナルコト及ビ攻撃ノ手段ガ  
適用セラルベキ法條ヲ異ラシメザル程度ニ於テ相類似スルコト換言スレバ  
數個ノ行爲ノ各手段ガ法律ガ抽象的ニ同一價値ヲ附シタル方法ナルコトヲ  
意味ス故ニ同一法條ニ觸ル、モ法益ガ同一ナラザルトキハ連續犯タルコト  
ヲ得ズ假令バ丁ガ甲ノ乙ノ妻タルトキヨリ丙ノ妻トナリシ後迄連續シテ甲  
女ト姦通スルモ丁ヲ姦通ノ連續犯トシテ處罰スルコトヲ得ズ何トナレバ姦  
通ニ因リ侵害セラル、法益ハ夫ノ夫權ニシテ乙ノ夫權ト丙ノ夫權トハ同一  
種類ノ法益ナルモ同一ノ法益ニアラザルヲ以テナリ次ニ攻撃手段ガ適用セ  
ラルベキ法條ヲ異ラシメザル程度ニ於テ相類似スルコトヲ要スルヲ以テ假  
令バ盜罪ニ於テ窃取ノ方法ガ如何ニ異ナルモ暴行又ハ脅迫ヲ爲シ若クハ  
人ヲ昏醉セシムル等即チ強取ニ出デザル以上ハ盜罪ノ連續犯タルニ妨ゲ  
ナシ舊法ノ下ニ於テハ單純盜竊ト踰越盜トヲ區別シ其適用スベキ法條ヲ異  
ニセルヲ以テ單純盜竊ト踰越盜トハ連續犯タルコトヲ得ザルモ新法ノ下ニ

於テハ之等ノ區別ナキニ由リ連續犯タルニ妨ゲナシ

(三) 數個ノ行爲ニ連續ノ關係ヲ存スルコトヲ要ス學者或ハ確定判決アリタルトキハ其判決前ノ行爲ト後ノ行爲トノ連續ハ中斷セラルト云ヒ或ハ行爲ト行爲トノ間ニ著シク時ヲ隔ツルトキハ連續ノ關係ヲ中斷スト説クモ右ハ何レモ格段ナル場合ノ説明ニシテ未ダ概括的且ツ積極的ニ連續ナル意義ヲ説明シタルモノナシ從テ連續ノ關係アルヤ否ヤハ一ニ常識ニ依リ定ムルノ外ナシトス

### 第十章 累犯

併合罪ハ確定判決前ニ於テ犯サレタル數罪ヲ云ヒ累犯ハ確定判決ニ依ル犯罪ト確定判決後犯サレタル犯罪トノ關係ヲ云フ故ニ二者何レモ數個ノ罪ノ存在ヲ必要トスルモノハ確定判決前ニ同時ニ又ハ時ヲ異ニシテ犯サレ一ハ確定判決前ニ犯サレタル罪ト確定判決後ニ犯サレタル罪ト必ズ時ヲ異ニシテ行ハレタルコトヲ要ス

累犯ハ理論上凡テノ犯罪ニ付テ存在シ得ルモ本法ハ特定ノ犯罪ニ付テノミ之ヲ

認ム累犯ノ成立要件及ビ之ガ處分方法ハ各本條ノ下ニ説明スベシ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スベキトキ亦同ジ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處スベキ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非ズト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ハ再犯加重ノ要件ヲ規定セリ即チ左ノ如シ

- 一 再犯タル犯罪ハ有期懲役ニ處セララルベキモノナルコト從テ死刑無期懲役及禁錮罰金拘留科料ニ處セララルベキ犯罪ニ付テハ累犯加重ノ問題ヲ生ゼズ
- 二 前犯ノ罪ハ懲役ニ處セラレタルカ又ハ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得若クハ懲役ニ減輕セラレタルカ又ハ前犯ニ於テ併合罪トシテ處斷セラレタル者ノ内懲役ニ處スベキ罪ノアリタルコト懲



役ニ該ル罪ト同質ノモノナルヤ否ヤハ各本條ニ付キ減輕シタルトキニ於テ  
懲役ニ處スベキヤ否ヤニ依リ之ヲ定ムベキモノトス

三、累犯トシテ加重スベキ犯罪ハ前犯ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日  
ヨリ五年内ニ犯サレタルモノナルコト

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ  
加重スベキ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付  
テハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同ジ

右各條文ノ立法問題トシテハ議論ノ餘地ヲ存スルモ解釋論トシテハ一讀シテ  
其意義明カナルヲ以テ之レガ説明ヲ省ク

### 第十一章 共犯

共犯ハ單獨犯ニ對ス單獨犯トハ一人ガ獨立シテ罪責ヲ負フヲ云ヒ共犯ハ二人以

上ガ共同シテ罪責ヲ負フヲ云フ

共犯ヲ行爲ガ共同セラル、體様ニ因リ正犯教唆犯從犯ニ區別ス正犯トハ犯罪行  
爲ニ着手スルニ因リ罪責ヲ負フ者ヲ云ヒ教唆犯トハ正犯ニ犯罪ノ決意ヲ與フル  
ニ因リ罪責ヲ負フ者ヲ云ヒ從犯トハ正犯ヲ幫助スルニ因リ罪責ヲ負フ者ヲ云フ  
其詳細ハ各條文ノ下ニ説明ス

單獨犯ハ犯罪行爲ニ着手スルニ因リ一人ガ獨立シテ罪責ヲ負フ故ニ單獨犯ハ常  
ニ正犯タリ而シテ教唆犯從犯ハ常ニ正犯ノ存在ヲ其成立條件トス從テ單獨教唆  
犯單獨從犯タルモノナシ

單獨正犯ハ犯罪ニ着手スルコトヲ要ス而シテ其着手行爲ヲ爲スニ當リ自己ノ行  
爲ノミニ因ルコトアリ他人ノ行爲ヲ利用スルコトアリ人ノ行爲以外ノ外界ノ勢  
力ニ因ルコトアリ自己ノ行爲ノミニ因リ又ハ人ノ行爲以外ノ外界ノ勢力ヲ利用  
スル場合ノ單獨正犯タルヤ明カナリ他人ノ行爲ヲ利用スル場合ニ於テ其行爲ガ  
他人ノ爲メ犯罪タラザルトキハ單獨正犯タルモ否ラザル場合ニ於テハ共犯ノ關  
係ヲ生ズ罪トナラザル他人ノ行爲ヲ利用スルニ因ル正犯ヲ學者稱シテ間接正犯  
ト云ヒ自己ノ行爲ノミニ因リ又ハ人ノ行爲以外ノ外界ノ勢力ヲ利用スルニ因ル

正犯ヲ學者稱シテ直接正犯ト云フ

共犯ハ二人以上共同シテ罪責ヲ負フ者ヲ云フ二人以上共同シテ罪責ヲ負フハ行為ノ共同關係ヲ有スルニ因ル行為ガ共同關係ヲ有スルニハ客觀的ニ各自ノ行為ガ相俟テ結果ノ發生ニ對シ因果關係又ハ因果關係類似ノ關係ヲ有シ主觀的ニ共同犯罪ノ觀念アルコトヲ要ス客觀的ニ共同ノ行為アルコトヲ必要トズルヲ以テ學者ノ所謂陰謀犯罪組合及ビ事後ノ從犯教唆犯ハ共犯ニアラズ主觀的ニ共同犯罪ノ觀念アルコトヲ必要トスルヲ以テ故意ナキ犯罪ニハ共犯ナシ共犯ト似テ非テルモノヲ同時行為トナス即チ共同犯罪ノ認識ナク唯客觀的ニ行為ト行為ガ偶然ニ競合シテ一ノ結果ヲ發生スル場合ナリ假令バ甲乙各樹蔭ヨリ互ニ相知ラズシテ同時ニ丙ヲ狙撃シ二箇ノ彈丸命中シタル爲メ丙遂ニ死シタル場合ノ如シ如此場合ニハ甲乙各自ニ單獨正犯トシテ其責ニ任ズ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

本條ハ共同正犯ノ意義及ビ其處分ヲ定ム

共同正犯ハ二人以上共同シテ犯罪ノ着手行為ニ入りタル爲メ各自其罪責ヲ負フ場合ナリ法文ニ所謂共同シテ犯罪ヲ實行シ云々トハ即チ共同シテ着手行為

ニ入りタルノ意ナリ從テ共同正犯タルニハ一共同ノ着手行為アルコトニ共同ノ觀念アルコトヲ要ス

一共同ノ着手行為アルコト

共犯者各自ノ行為ガ各着手行為ニ入りタルトキハ皆共同正犯ナリ從テ實行ト隔タリタル豫備ノ行為ハ從犯タルモ正犯タルコトヲ得ズ而シテ其着手行為タルヤ否ヤハ行為ヲ抽象的ニ觀察シテ決定スベキモノニアラズシテ四邊ノ事情ヲ綜合シテ定ムヘキコトハ第八章ノ下ニ於テ證明セリ

正犯ト從犯トヲ區別スル標準ニ付テハ學說分ル主觀說ニ從ヘバ犯人自ラノ行為トシテ犯罪ノ意思ヲ有スルトキハ正犯ニシテ他人ノ爲メニ其行為ニ加擔スルトキハ從犯ナリトシ客觀說ニ從ヘバ行為ノ性質ニ依リ區別ス前ニ説明シタルハ即チ此說ナリ折衷說ハ行為ノ性質ニ依リ明ニ區別シ得ル場合ハ客觀說ニ從ヒ否ラザル場合ニハ主觀說ニ從フ

二共同ノ觀念アルコト

即チ二人以上ガ共同ノ行為ニ因リ犯罪ヲ完成スル觀念ニシテ即チ相互ニ加擔スル事實ノ認識ナリ此ノ事實ノ認識ハ學者ノ所謂通謀ト區別スルコトヲ

要ス通謀トハ數人ノ間ニ豫メ一定ノ犯罪ヲ爲ス意思ノ合致アルヲ云フ事實ノ認識ハ行爲ヲ爲スニ當リ其事實ヲ知覺スレバ足り豫メ之レガ合意ヲ必要トスルモノニアラズ

共犯ハ相互ニ加擔スルコトヲ認識シタル事實ノ範圍内ニ於テ存ス從テ其認識以外ノ事實ニ付テハ共犯ヲ存セズ假令バ甲乙二人共同シテ強盜ヲ爲スニ當リ甲ガ乙ノ知ラザル間ニ女子ヲ強姦シタル場合ニ於テハ強盜ニ付テハ共同正犯タルモ強姦強姦罪ニ付テハ共同ノ關係ナシ

相互加擔ノ認識ハ共犯者凡テニ存スルコトヲ要スルカ一人ノミ之ヲ有スルモ可ナルカニ付キ議論アルモ多數說ハ共犯者ノ凡テニ存スルヲ必要トス

共同正犯ハ主従ノ關係ナリ相對立シテ正犯タルヲ以テ之レガ處分モ單獨正犯ト同一ナリ法文ニ於テ皆正犯トストハ一方ニ於テ此意義ヲ明ニシタルナリ從テ刑罰ノ加重減刑ハ共犯各自ノ理由ニ因リ各別ニ斟酌セラルベク一人ニ存スル理由ヲ他ノ共犯者ニ對シ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス但シ身分ガ共犯ニ及ボス影響ニ付テハ後ニ説明ス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯トス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

教唆犯トハ故意ヲ以テ正犯ニ犯罪ノ決意ヲ與フルヲ以テ今其意義ヲ分析説明スレバ左ノ如シ

第一、教唆者ノ行動ト正犯即チ被教唆者ノ犯罪決意トノ間ニ因果關係又ハ因果關係類似ノ關係アルコトヲ要ス換言スレバ正犯ノ犯罪決意ハ教唆行爲ノ結果タルヲ要ス而シテ其教唆行爲ノ手段ニ付テハ法文ニ何等ノ制限ナキヲ以テ威嚇ニ因ルト贈與ニ因ルトヲ問ズ教唆犯トシテ成立ス

第二、教唆者ニ於テ教唆行爲ト正犯ノ犯罪決意トノ間ニ存スル客觀的關係ノ認識アルコトヲ要ス故ニ過失ニ因リ他人ニ犯罪ノ決意ヲ與フルモ教唆犯タルコトヲ得ズ錯誤ニ因リ故意ヲ阻却スベキコトハ一般故意犯ニ於ケル場合ト同シ

教唆犯ハ正犯ニ加擔スル事實ノ認識ヲ要スルモ正犯ハ教唆犯ニ因リ教唆セラルコトヲ認識スルヲ要セズ

第三、正犯ノ存在スルコトヲ要ス教唆者ニ於テ故意ニ被教唆者ニ犯罪ノ決意ヲ與フルモ被教唆者ヲシテ犯罪ニ着手セザル以上ハ正犯ナク從テ教唆犯ノ

存在スル理由ナシ蓋シ教唆行爲ハ被教唆者ニ犯罪ノ決意ヲ與フルニ由リ終了スト雖モ此場合ニ於テ教唆行爲ト獨立シテ存在スル正犯ノ犯罪着手ナル事實ガ教唆犯ノ處罰條件ヲ爲スヲ以テ其條件ノ到來前ニ於テハ教唆行爲ヲ存スルモ教唆犯ヲ存スルノ理ナケレバナリ

- 一、被教唆者ノ行爲ニ犯罪不成立ノ原因ヲ存スルトキハ正犯ナク從テ教唆犯ナシ但シ此場合ニ於テ間接正犯トナルニ妨ゲナシ
- 二、教唆犯ニ未遂犯ナシ蓋シ教唆行爲ニシテ未遂ニ終ランカ被教唆者ニ犯罪ノ決意ヲ與フルコトナク從テ正犯成立セザルヲ以テ教唆行爲ノ未遂ヲ存スルモ教唆犯ニ未遂犯ヲ存スベキ理ナケレバナリ
- 三、教唆犯ニ對シ教唆犯又ハ從犯ヲ存セザルヲ理論トス蓋シ教唆ハ正犯ニ從タル犯罪ナルヲ以テ獨立シタル正犯ニ對スルニ非ルヨリハ教唆犯又ハ從犯ヲ存スベキ理ナケレバナリ但シ法文ハ特ニ教唆ノ教唆ヲ尙ホ教唆犯トシテ處罰スベキ旨規定セルヲ以テ解釋論トシテハ教唆犯ニ從犯ヲ存セザルモ尙ホ教唆犯ヲ存スト云ハザル可ラズ然レドモ第三以下ノ教唆ハ本條

ノ規定外ト解スルヲ正當トス

教唆犯ヲ正犯ニ準ストハ教唆犯ノ處分ヲ定メタルモノニシテ即チ正犯ト同一ノ刑ヲ科スルノ意ナリ尙ホ犯人ノ身分ガ刑罰ニ影響ヲ與フル關係ニ付テハ第六十五條ノ下ニ説明スベシ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

從犯トハ故意ヲ以テ正犯ヲ幫助スルヲ云フ從テ

- 第一、他人ノ犯罪ヲ幫助スル行動アルコトヲ要ス他人ノ犯罪ヲ幫助スルトハ正犯ノ實行ヲ容易ナラシムルノ意ナリ而シテ之ヲ容易ナラシムルニハ或ハ犯罪ノ方法手段ヲ誘導指示シ或ハ犯罪ニ用フル器具ヲ給與スル等幫助ノ方法ニ付キ法文ニ制限ナキヲ以テ苟クモ正犯ノ實行ヲ容易ナラシムル以上ハ凡テ從犯ナリトス
- 幫助行爲ヲ無形ト有形ニ區別スルコトヲ得無形ノ幫助ハ正犯ノ思慮ヲ補充スルモノニシテ有形ノ幫助ハ正犯ノ實行ヲ補充スルモノナリ有形ノ幫助行爲ニ付キ共同正犯ト從犯トヲ區別スル標準ニ付テハ前ニ説明シタルヲ以テ

之ヲ省ク

幫助行為ハ正犯ノ實行前又ハ實行中ニ存スルコトヲ要ス實行後ニ存スル者ハ學者ノ所謂事後從犯ニシテ玆ニ所謂從犯ニハ非ルナリ

第二、他人ノ犯罪ヲ幫助スルノ故意アルコトヲ要ス即チ從犯ハ常ニ故意犯ニシテ過失ニ因リ他人ノ犯罪ヲ幫助スルモ從犯ニアラズ從テ故意犯ニ關スル錯誤ノ説明ハ凡テ此場合ニ適用セラレベキモノトス

從犯ハ正犯ニ加擔スル事實ヲ認識スルコトヲ要スルハ從犯ノ故意犯タル性質ヨリ生ズル當然ノ結果ナルモ正犯ハ從犯ニ因リ幫助セラル、コトヲ認識スルノ必要ナシ

第三、正犯ノ存在スルコトヲ要ス

正犯ノ實行ガ從犯ノ處罰條件ヲ爲スコトハ教唆犯ノ場合ト同一ニシテ從テ正犯ニ犯罪不成立ノ原因アルトキハ假令幫助行為アルトモ從犯トシテ成立セザルコト從犯ニ未遂犯ナキコト從犯ノ從犯又ハ教唆犯ナキコトハ教唆犯ノ場合ト凡テ同一ナリ然レドモ法文ハ特ニ從犯ノ教唆犯ヲ從犯ニ準スベキ旨規定セルヲ以テ成法ノ解釋トシテハ從犯ノ教唆犯ヲ準從犯トシテ處罰セ

ザル可ラズ但シ從犯ノ從犯及ビ從犯ノ第二以下ノ教唆ハ本條ノ規定外ト解スルヲ正當トス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照ラシテ減輕ス

本條ハ從犯ノ處分ヲ定ム但シ共犯者間ニ於ケル身分關係ノ影響ニ付テハ第六十五條ノ下ニ説明ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處スベキ罪ノ教唆者及ビ從犯ハ特別ノ規定アルニ非ザレバ之ヲ罰セズ

教唆犯從犯ハ理論上凡テノ犯罪ニ付キ存在シ得ルモ拘留又ハ科料ノミニ處スベキ罪ノ如キ輕微ナルモノニ付テハ一般ニ教唆犯從犯ヲ認ムル必要ナキニ由リ本條ヲ設ケ特別ノ規定アル場合ノ外之ヲ罰セザルコトトセリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

犯人ノ身分ガ犯罪ノ構成要件ヲ爲ス場合ト刑罰加重ノ條件ヲ爲ス場合トアリ今共同正犯及ビ教唆犯從犯ニ付キ單ニ理論上ヨリ觀察シテ之レガ説明ヲ與フ

ルトキハ

一、共同正犯ニ付テハ其一人ガ犯罪ノ構成要件タル身分ヲ有セザルトキ假令ハ官吏ノ收賄罪ニ於テ其一人ガ官吏ニアラザルトキハ官吏タル他ノ數人ニ付テハ收賄罪ノ共同正犯成立スルモ之レガ身分ヲ有セザル者ニ付テハ收賄罪ノ正犯ヲ成立スルコトナシ其身分ガ刑罰加重ノ條件タル場合ニ於テモ身分ナキ者ニ對シテ刑罰ヲ加重スルコトヲ得ザルナリ之レ蓋シ共同正犯ハ共同ノ行爲ニ因リ罪ヲ犯シタルモノナルモ其罪責ハ他ノ共同正犯ニ關係ナク各自獨立シテ負擔スベキモノナルヲ以テナリ

二、教唆犯及ビ從犯ニ付テハ正犯ノ身分ヲ以テ標準トシ教唆犯及ビ從犯ノ身分ヲ標準トスベキモノニアラズ之レ蓋シ正犯ニ對シ教唆犯及從犯ノ從屬スル關係ヨリ生ズル當然ノ結果ナリ從テ身分ガ犯罪ノ構成要件タル場合ニ正犯ニ此身分ナキハ教唆犯從犯ニ身分アルモ犯罪成立セズ教唆犯從犯ニ身分ナキモ正犯ニ身分アルトキハ其犯罪ノ教唆犯從犯成立ス身分ガ刑罰加重ノ條件タルトキモ亦同一ナリ

以上ハ理論ニ基ク結果ナルモ本條第一項ハ身分ガ犯罪ノ構成條件タル場合ニ

之レニ加功シタル者ニ身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トスベキ旨規定セルヲ以テ成法上ノ解釋トシテハ共同正犯中身分ヲ有スル者一人アルトキハ他ノ身分ナキ者ト雖モ凡テ正犯トシテ處罰セラルベク教唆犯從犯ニ身分ナキモ正犯ガ其身分ヲ有スルトキハ教唆犯從犯トシテ處罰セラルベキハ當然ナリ然レドモ教唆犯從犯ニ身分アルモ正犯ニ身分ナキトキハ正犯存在セザルヲ以テ從テ教唆犯從犯ハ成立セザルモノト云ハザル可ラズ  
身分ガ刑罰加重ノ條件ナルトキハ身分ナキ者ニ通常ノ刑ヲ科スベキ旨規定セルヲ以テ共同正犯ノ場合ハ前ニ説明シタル理論上ノ結果ト同一ニ歸スルモ正犯ニ身分アリテ教唆犯從犯ニ身分ナク教唆犯從犯ニ身分アリテ正犯ニ身分ナキ場合ハ理論上ノ結果ト全ク相反ス

### 第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得  
第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原因アルトキハ左ノ例ニ依ル

一、死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス  
二、無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三、有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ズ

四、罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ズ

五、拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ズ

六、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ズ

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ヅ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タザル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タザル金額ヲ剩ストキ亦同ジ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲スベキトキ亦第六十八條及ビ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕スベキトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一、再犯加重
  - 二、法律上ノ減輕
  - 三、併合罪ノ加重
  - 四、酌量減輕
- 以上各條文ニ付テハ凡テ説明ヲ省略ス

改正 刑法 講義 總論 終

明治四十一年八月廿四日印刷  
同 八月廿八日發行

(定價金四拾錢)

不許  
複製

編輯者兼 東京市芝區田村町二十番地  
中 村 彌 助

印刷者 東京市京橋區日吉町十番地  
齋 藤 仙 吉

東京市芝區田村町二十番地

發行所 警察新聞社出版部



每月  
三回  
**警察新聞**

菊判二倍二十四頁一部定價金七錢  
(每月一回菊判八十頁の法學講義  
録添付)一ヶ月前金二十錢

警察新聞社發行書目

本紙は警政の指針説明者として官民提携の媒介者として法令の講明者として文藝の鼓吹者として二年前世に立てり見よ下の内容を○社説は時事を評論し特に警察界の問題に心力を盡す○論説は法理を闡き法令を説き警察制度の沿革を明にせる諸大家の著作を載す○判決例は主として大審院刑事判決の重要なものを掲ぐ○警察衛生は警視廳等在勤の専門學者兼實務家の講話を載す○質疑解答は法律上の疑問に對する警察正解は主として法律學上の術語を載す○語を註釋す○外國語は英韓滿三國語を教ゆ○漫録は社會の各方面に涉り實益趣味併せ得たるとに資す○名家の警察觀は特に出づ○現代名士の警察的感想の評語を載す○讀者の聲は普通苑は詩歌俳句小品文等の篇什を載す○各地通信は重要なる各地の通信に就ての回答書も載す○觀察的批評的感想の篇什を載す○相持を載す○各地通信は重要なる各地の通信に就ての回答書も載す○讀者の聲は普通く讀者の寄稿を載す○觀相は斯道大家の寫眞判定を掲ぐ○各地通信は重要なる各地の通信に就ての回答書も載す○讀者の聲は普通批評論者豊富なり○觀相は斯道大家の寫眞判定を掲ぐ○各地通信は重要なる各地の通信に就ての回答書も載す○讀者の聲は普通審判は精嚴なる批評力を以て法界警察界の消息を知る以上○難報は嶄新確實趣味實益を兼備せる利あるを證明すべく特に法律界警察界の消息を知る以上○難報は嶄新確實趣味實益を兼備せるするの急要あるべし

毎月  
一回  
**法學講義録**

菊判八十頁一部定價十五錢(菊判二倍二十四頁毎月三回の警察新聞と共に)一ヶ月前金二十錢  
公法私法に就て各専門學者の長所を採る丁寧深切の講義集にして其内容は世既に定論あり自費を要せず

東京地方裁判所檢事 法學士 清水孝藏君序  
日本法學士片山 要君述

**行政法通論講義録**

完  
洋裝菊判二百六十頁餘  
定價金 三十三錢  
郵 稅 四 錢

法學士 清水孝藏君本書に序したる一節に曰く

余試に同書を閲覽するに。僅に二百六十餘頁の小冊子なれども。論旨一貫。説明簡約。而かも主として行政法の總論を詳述したる。所謂小品の上乗なるものなり。初學者にして行政法の大意を了解せんとする者には。頗る適當の著述なりと謂ふべし。其後數日。偶同氏に遇ひ。其意外の好著なるを告ぐるや。氏大に喜び。余の言を以て直に序となさんことを求む。余自ら序文を作るの能なく。又批評を爲すの材にあらざることを知ると雖も。重ねて之を辭するに忍びず。遂に此の顛末を書し。以て序となすことを承諾したり。

國民新聞曰く 警察新聞の附録として出版したるものにして初學者に行政法の大意を了解せしむるに於て文章簡明最も其の要を得たり

警察新聞社發行書目

珍袖  
**刑法正文**

完 定價金十錢

每條文の上部に餘白を存し記入に便す即ち本書自身が刑法講究者の「ノ  
ートブック」を兼ねるものなり賣部數既に二萬に達す以て本書の價值を知  
るべし

東京地方裁判所檢察 法學士 清水孝藏君序  
山形地方裁判所判事 森 雅太郎君述

**改正刑法講義總論**

完 洋裝菊判百二十餘頁  
定價金四十錢  
郵 稅 共

東京地方裁判所檢察 法學士 清水孝藏君序  
法學士 永山善之助君述

**改正刑法講義各論**

完 洋裝菊判二百廿頁餘  
定價金五十五錢  
郵 稅 共

改正刑法の實施が目睫の間に迫りて國民をして斯法研鑽の急要を感ぜ  
しむるに際し議論穩健解釋明確の著書は即ち國民の良師友たるなり本  
社講義録中の右二編が果して良師友の能力を有するや否やは讀者の判  
斷に任じ敢て自畫自賛の陋を學ばず

目書行發社聞新察警

法學士 守屋源次郎君述

**司法警察論講義**

完 洋裝菊判百五十頁餘  
定價金二十錢

萬朝報曰く 著者吾國未だ此種の好著を有せざるを憾むと稱して之を  
出す緒論に於て警察の意義、沿革、種類、警察權の基礎、範圍等を説き、本  
論に入りて司法警察の意義、機關、違警罪の即決處分等を明にす一般人  
士の心得置べき事も多し  
臺灣日々新聞曰く 從來警察法に關する書籍甚だ尠しとせざれども右  
は主として行政警察の範圍に止まり司法警察に至りては未だ完璧の著  
述尠きを遺憾とし著者が研究の概要を編せるもの内容を緒論本論の二  
篇に分ちて本題の要旨を詳述しあり

大阪控訴院判事 法學士 多喜澤秀雄君述

**警察官講習會講義**

完 洋裝菊判六十頁餘  
定價金十五錢

右各講義完結するや否や江湖の需要を察する所に從ひ更に刊行殆ど實  
費的の廉價を以て發賣せるに好評噴々既に各數千部を賣盡したり再版  
成る朝野の諸彦購讀の機を失する勿れ

目書行發社聞新察警

警新新聞社發行書目

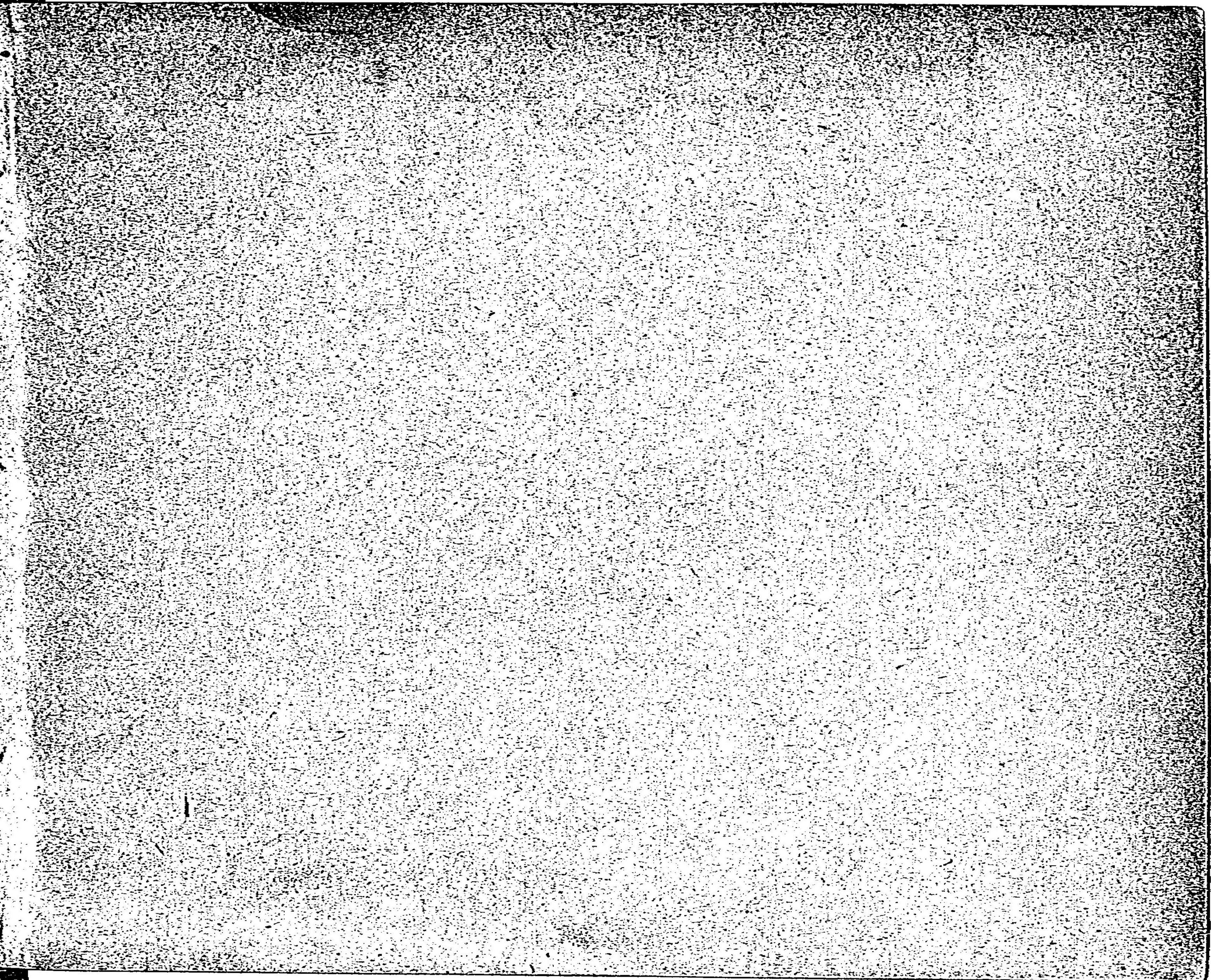
臺灣總督府法務課長 法學士 手島兵次郎君序  
東京地方裁判所檢察 法學士 清水孝藏君校閱  
法政大學得業士 三隅 正君  
法政大學得業士 尾崎俊次郎君 共述

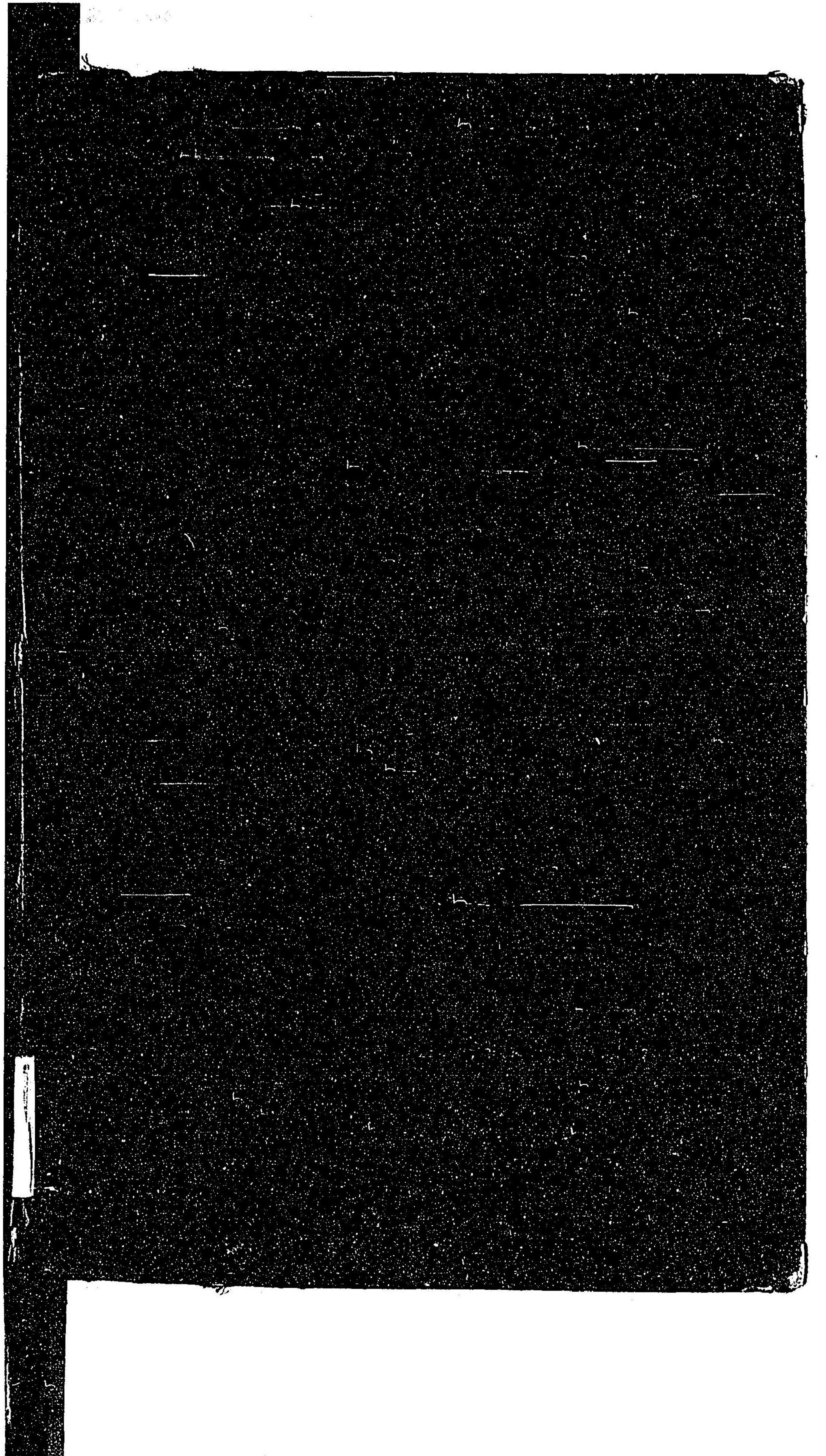
刑事訴訟法講義

完

洋裝菊判五百有餘頁  
定價 金 一 圓

改正刑法の運用法たるべき改正刑事訴訟法の未成なる今日に於て現行刑事訴訟法の多少を改訂せるまでの刑法施行法は之を咀嚼して以て刑事訴訟法研鑽の目的を達すべきなり此點に就て本社の刑事訴訟法講義は講明深切にして時務の急に應ずることを勉めたり若し夫れ本講義が根本的内容の豊富議論の精確に至りては讀者既に之を熟知す





18  
890

035506-000-5

18-890

改正刑法講義總論

森 雅太郎 / 著

M4 1

BBP-0046



